

御嵩町地域公共交通網形成計画(案)

令和2年●月

御嵩町

目 次

序	御嵩町地域公共交通網形成計画策定の背景と目的	1
1	御嵩町の地域概況概況の整理	2
(1)	御嵩町の概況整理	2
(2)	上位・関連計画の整理	7
(3)	公共交通の現状整理	13
2	ニーズ調査の実施・分析	16
(1)	住民アンケート	16
(2)	住民アンケート（高齢者）	20
(3)	利用者アンケート	23
(4)	乗降調査	25
3	御嵩町における地域公共交通の課題	27
(1)	各種調査結果からみた課題の抽出	27
(2)	個別課題から導かれる集約課題	36
4	地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針	37
(1)	御嵩町の交通将来像	37
(2)	地域公共交通の基本方針	38

5 計画の区域と計画期間 40

(1) 計画の区域..... 40

(2) 計画の期間..... 40

6 計画の目標 41

7 計画の目標を達成するために行う事業・実施主体 43

(1) 公共交通の種類とサービス水準の設定..... 43

(2) 公共交通ネットワーク形成の方針..... 46

(3) 交通結節点の整備方針..... 48

(4) 公共交通の利用促進施策..... 49

(5) 事業実施のスケジュールと実施主体..... 54

8 計画の達成状況の評価に関する事項 56

(1) 評価・検証の考え方及びその手順..... 56

(2) 公共交通ネットワークの評価・検証..... 57

(3) 個別事業および路線単位での評価・検証..... 58

序 御嵩町地域公共交通網形成計画策定の背景と目的

本町に居住する住民の公共交通を利用した移動手段としては、名鉄広見線、一般タクシー、ふれあいバス（定時定路線）、ふれあい予約バス（デマンドバス）、さらに、可児市及び八百津町と共同してY A Oバス（定時定路線）といった交通手段があります。ふれあいバス及びふれあい予約バスは、地域住民の移動手段を確保・維持するために、平成 25 年 10 月より自主運行バスとして御嵩町が運行を開始し、これまで運行ルートの見直しや停留所の増設など様々な取り組みを行い、利便性を向上してきました。

しかし、近年の人口減少に伴う利用者の減少や、利用手段の目的が多様化してきていることから、地域公共交通が成り立たなくなる可能性も予測されており、運行形態及び運行ルートをはじめ、名鉄広見線の運行ダイヤを主軸に近隣市町との協議を重ねながら、住民がより一層公共交通を利用しやすい環境とする必要性が高まっています。

また、近年は外国人観光客や他地域からの訪町者が増えていることから、観光振興の分野にも着目する必要があり、観光ルートとの調整も求められています。

国が定める法律の改正について、まちづくり分野では、2014 年に都市再生特別措置法等の一部を改正する法律が施行され、高齢者や子育て世代にとって安心できる健康で快適な生活環境を実現し、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を可能とするまちづくりを目的とした、立地適正化計画が策定できるようになりました。また、公共交通分野では、2013 年に交通政策基本法の制定、2014 年に地域交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律が施行され、まちづくりと連携した持続可能な公共交通ネットワークを形成することを目的とした交通計画として、「地域公共交通網形成計画」が策定できるようになりました。

本町においては、御嵩町第五次総合計画、及び都市計画マスタープランで示されるまちの将来像の実現に向け、民間交通事業者や住民をはじめ、多様な関係者の協働のもと、公共交通がまちづくりと一体となった公共交通ネットワークの形成を目的として「御嵩町地域公共交通網形成計画」を策定することとしました。

1 御嵩町の地域概況の整理

(1) 御嵩町の概況整理

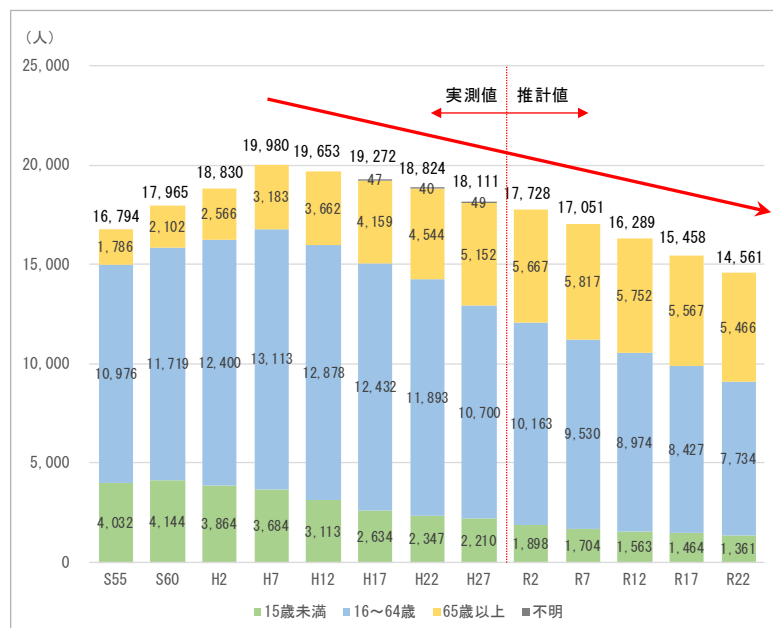
1) 人口の推移と将来見通し

■ 令和22年(2040年)の将来人口は14,561人と想定

■ 少子・高齢化が進展

本町の人口は平成7年をピークに人口は減少に転じており、平成27年時点で約18,000人となっています。人口構成を見ると、令和22年頃に65歳以上人口が約38%となり、約3人に1人が65歳以上という状態になるとされています。

図 1-2 将来推計人口



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 1-3 年齢3区分別人口割合の見通し



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

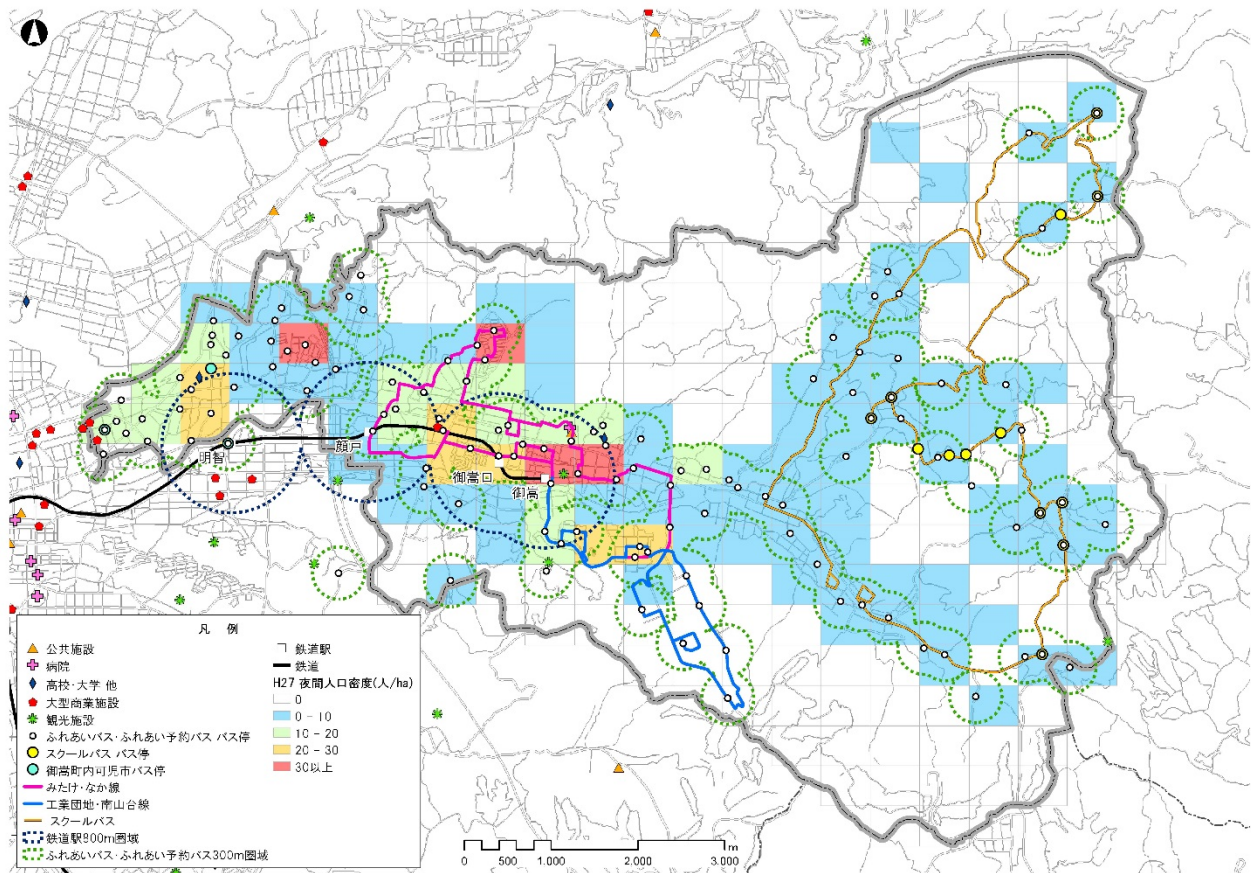
2) 公共交通路線網・施設立地状況

■ 名鉄広見線・ふれあいバス・ふれあい予約バスの人口カバー率は約89%

■ 主要集客施設は現況の公共交通サービスで全て内包

名鉄広見線・ふれあいバス・ふれあい予約バスの利用圏域（鉄道駅から800m、バス停・乗降場から300mと設定）と居住地を重ねてみると、名鉄広見線のみでは約43%、ふれあいバス・ふれあい予約バスでは約84%、公共交通全体（重複部分を考慮）では約89%の人口をカバーするとともに、主要集客施設は現況の公共交通サービスで全て内包しています。

図1-4 ふれあいバス・ふれあい予約バスの人口カバー率

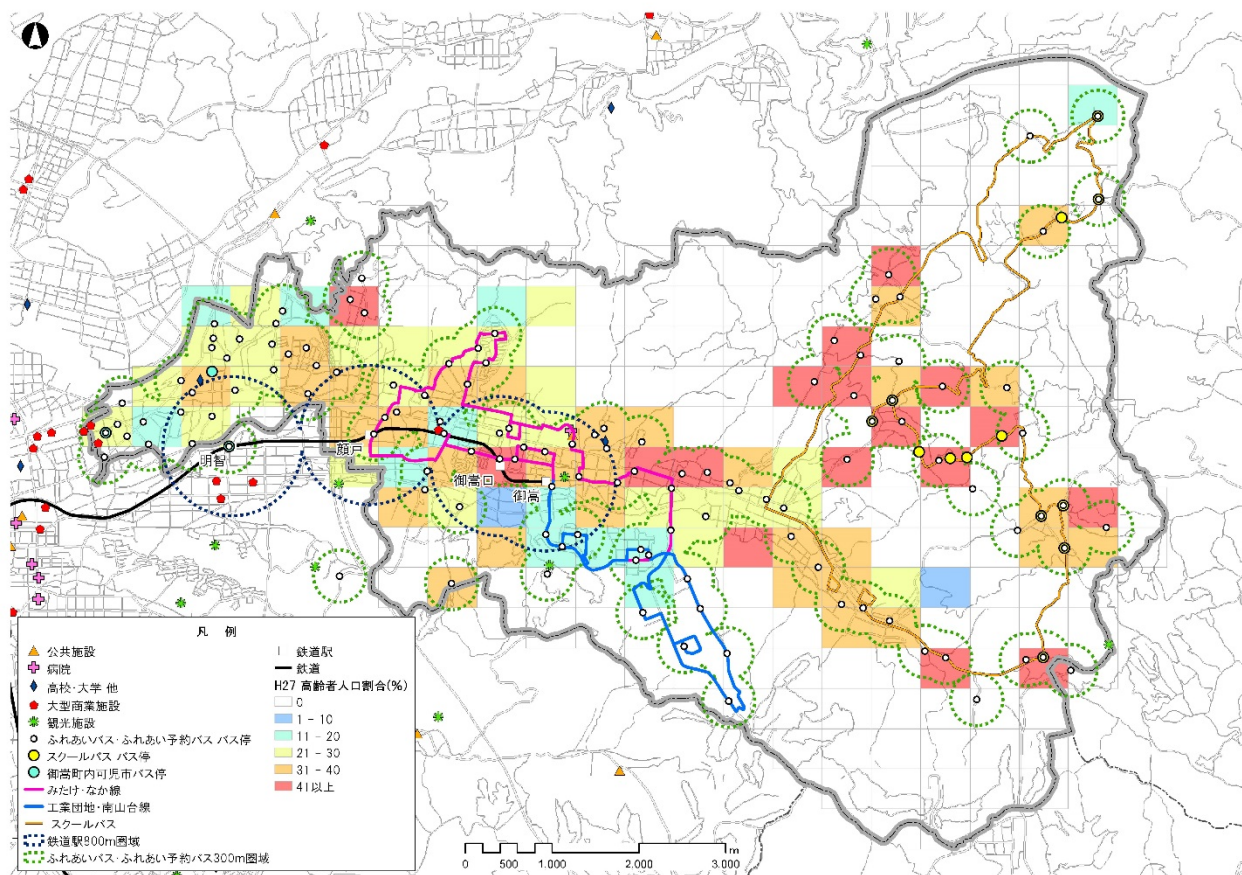


資料：国勢調査、国土数値情報、全国大型小売店舗総覧

■名鉄広見線・ふれあいバス・ふれあい予約バスの高齢者人口カバー率は約90%

名鉄広見線・ふれあいバス・ふれあい予約バスの利用圏域（鉄道駅から800m、バス停・乗降場から300mと設定）と高齢者（65歳以上）の居住地を重ねてみると、名鉄広見線のみでは約43%、ふれあいバス・ふれあい予約バスでは約85%、公共交通全体（重複部分を考慮）では約90%の人口をカバーしています。

図1-5 ふれあいバス・ふれあい予約バスの高齢者人口カバー率

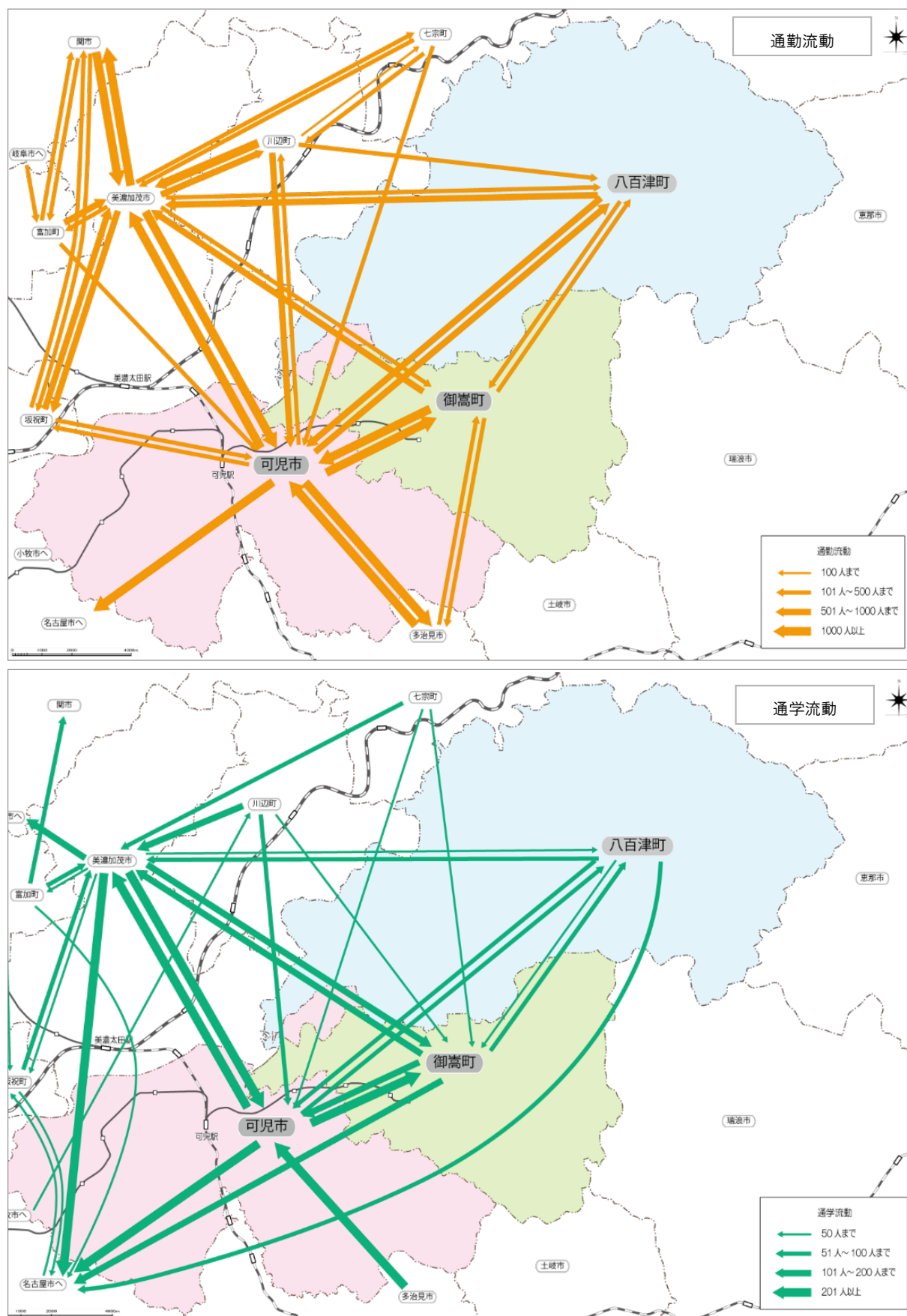


資料：国勢調査、国土数値情報、全国大型小売店舗総覧

3)通勤・通学流動

■通勤・通学とも、御嵩町・可児市・八百津町相互の結びつきが強い

図 1-6 通勤・通学流動



資料：国勢調査

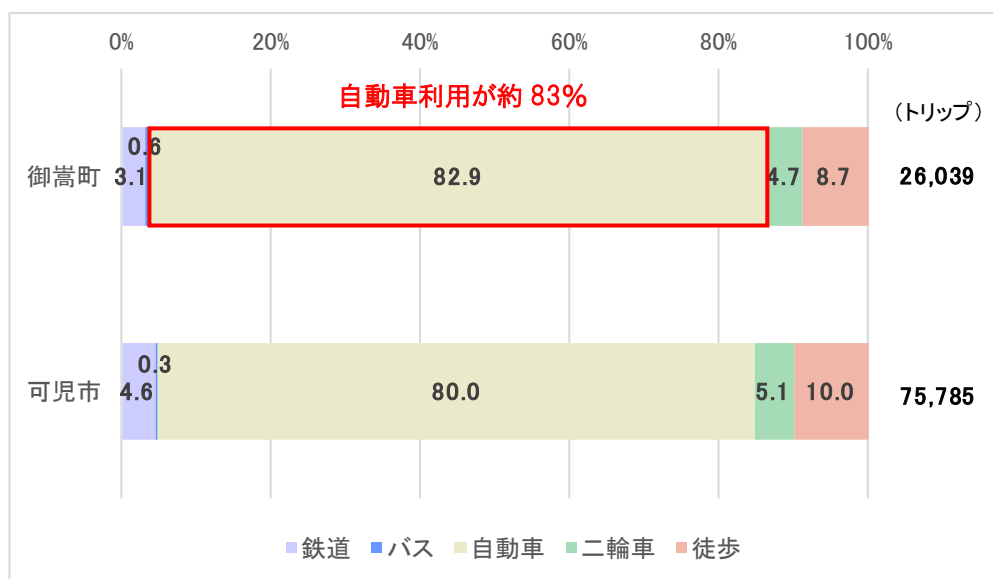
4)市民の交通特性

■交通手段は、自動車利用が約83%

■移動目的は、自由目的（買物・通院・娯楽等）が主体

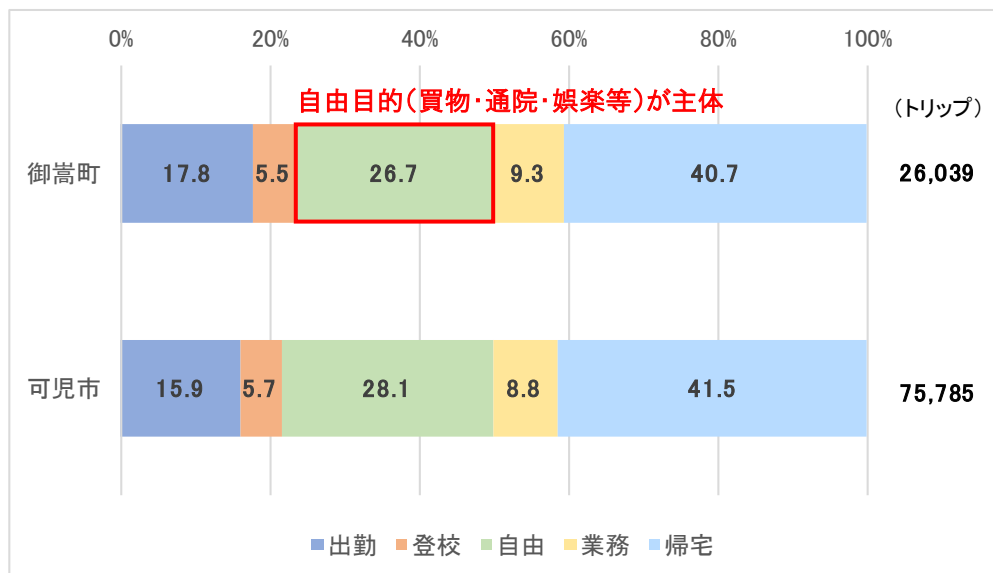
第5回調査の代表交通手段別トリップ*は、自動車が約83%を占めています。目的別トリップは、自由目的（買物、通院、習い事、食事など）が主体で26.7%となっています。どちらも可児市と同様の傾向が見られます。

図 1-7 全目的代表交通手段別トリップ構成



資料：第5回中京都市圏パーソントリップ調査

図 1-8 全手段目的別トリップ構成



資料：第5回中京都市圏パーソントリップ調査

* トリップ：人がある目的をもって、ある地点からある地点へ移動する単位で、1回の移動でいくつかの交通手段を乗り継いでも1トリップと数える。

* 代表交通手段：ひとつのトリップでいくつかの交通手段を乗り継いだ場合の代表的な交通手段のことをいい、どの交通手段を代表とするかの優先順位は、鉄道、バス、自動車、二輪車、徒歩の順とする。

(2)上位・関連計画の整理

1)御嵩町第五次総合計画(計画期間2016～2025年度)

①まちの将来像

「つながる・あふれる・輝くまち」

②目指すまちの姿

- 1 良好な環境を誇りとするまち
- 2 笑顔で育ちあうまち
- 3 みんなが支えあうまち
- 4 多くの人が行き交うまち
- 5 暮らしてみたいなるまち

③方針別基本計画

「目指すまちの姿 5 暮らしてみたいなるまち」

方向性 5-3「まちの特性にあわせた都市基盤を整備する」

●単位施策「公共交通の利用促進と体系の見直し」

- ・鉄道事業者と協力して名鉄広見線の利用促進
- ・駅周辺での都市機能集積
- ・バスや自転車、駐車場との連携強化

●成果指標 御嵩町自主運行バスの年間利用者数

基本成果指標	現状値(平成 27 年度)	目標値(令和 2 年度)
御嵩町自主運行バスの利用者数	25,923 人	29,000 人

2)御嵩町都市計画マスタープラン(計画期間2019～2028年度)

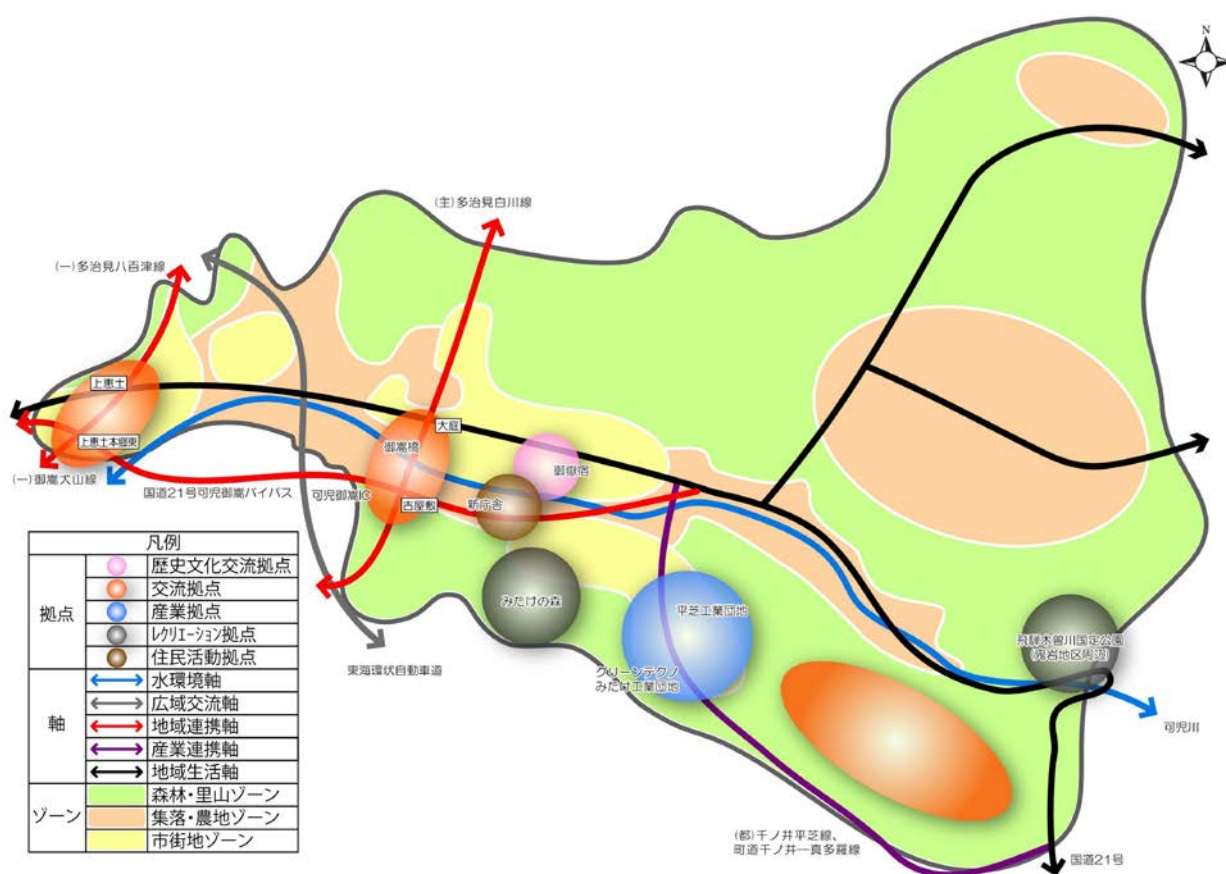
①まちの将来像

「つながる・あふれる・輝くまち」

②都市づくりの基本目標

- I 快適な居住環境づくり
- II 人・環境に優しいネットワークづくり
- III 魅力的な産業基盤づくり
- IV 安全・心な都市環境づくり
- V 地域の魅力・個性づくり

図1-11 将来都市構造図



③分野別の都市づくりの方針

環境にやさしいまちづくりの方針「効率の良い都市交通体系構築」

主要な公共交通機関である名鉄広見線の利用を促進するために、駅周辺の環境整備を行うとともに、御嵩駅を中心としたコミュニティバス「ふれあいバス」、「ふれあい予約バス」の利便性も向上させることで、「クルマに頼らないまちづくり」を推進します。

3) 名鉄広見線活性化計画(2019～2021年度)

① 目指す姿

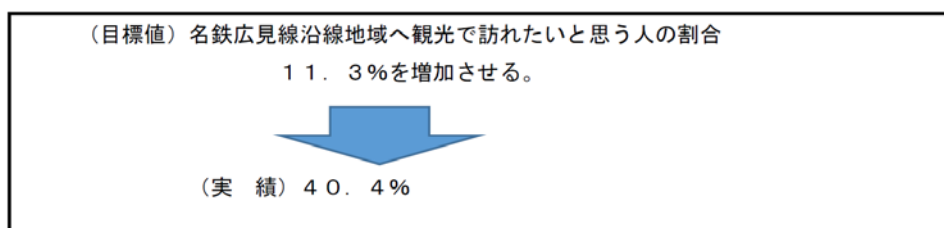
**名鉄広見線が市・町民にとって
必要な社会インフラとして存在し続けること**

② 計画目標

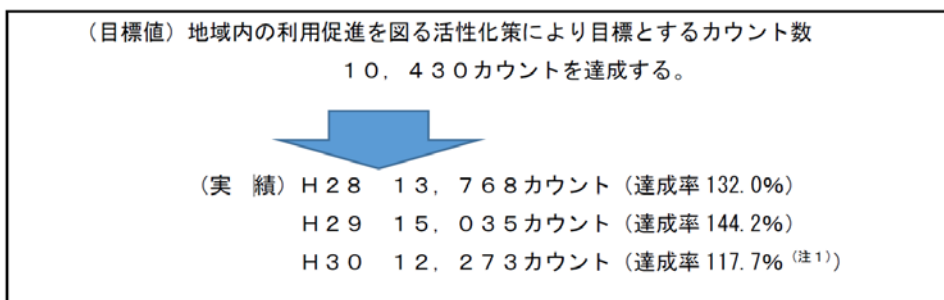
- 1 地域外からの利用者を増加させる
- 2 地域内の利用促進を図る
- 3 地域にとって必要な社会インフラである認識を高める

③ 目標値

- 1 地域外からの利用者を増加させる

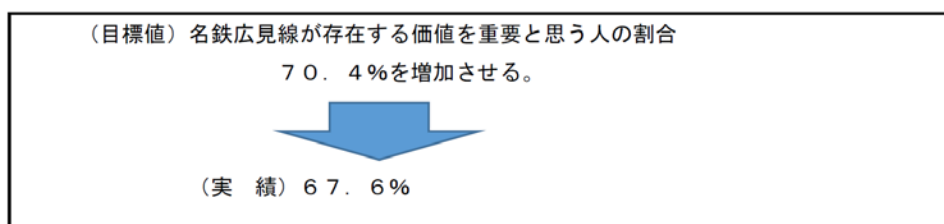


- 2 地域内の利用促進を図る



(注1: H30の達成率はH31.2月末現在)

- 3 地域にとって必要な社会インフラである認識を高める



4) 名鉄広見線とバス交通の連携向上による広域交通網形成に関する基礎調査

名鉄広見線とバス交通の連携向上による広域交通網形成に関する基礎調査地域住民の日常的な生活行動」及び「地域資源を活用した観光振興・交流の促進」に対応した広域バス路線構成案の検討が行われている。

① ルート設定の考え方

- ・名鉄広見線利用者の特性や新トンネル開通に伴う新たな移動需要を踏まえ、平日は朝夕の通勤・通学目的及び昼間帯の買物・通院目的の需要に対応し、休日は観光・レクリエーション目的の需要に対応することで、名鉄広見線と一体となった利用者確保・維持を図る。
- ・名鉄広見線沿線及びその周辺に立地する住宅団地、集落、工業団地、高校、商業施設及び観光施設へのアクセスを確保するため、名鉄広見線を始め、既存の民間路線バスや各市町が運行するコミュニティバス等が相互に連携・補完した公共交通ネットワークの形成を図る。
- ・名鉄広見線との接続は、既存の駅施設及び駅周辺の市街地形成等を踏まえ御嵩駅とする。
- ＊ 構成案の検討にあたっては、新駅整備が可能である場合も想定して構成案を示す。名鉄広見線が市・町民にとって必要な社会インフラとして存在し続けること

② 名鉄広見線と他交通との連携

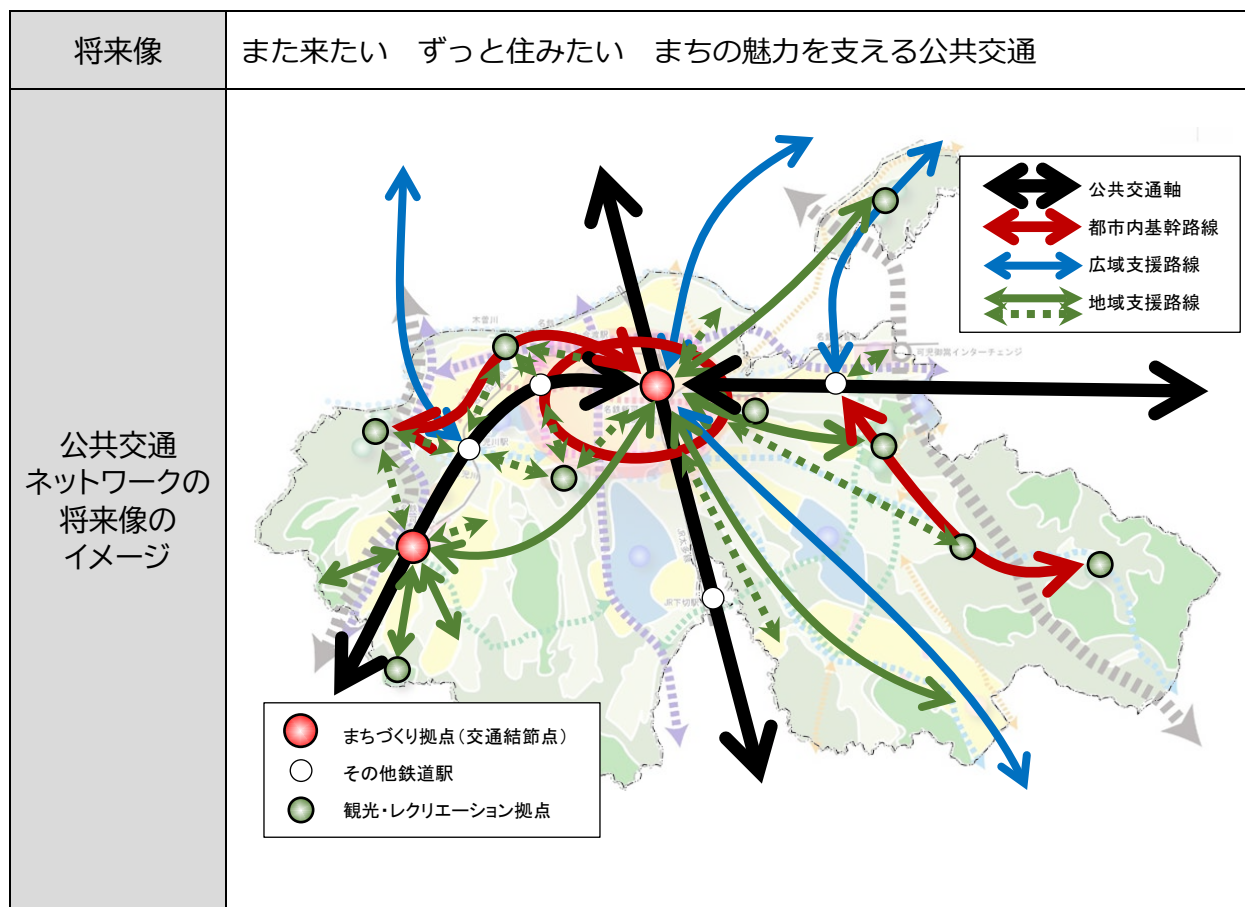
- ・名鉄広見線が果たす機能として、高校生を主体としたピーク時間帯における大量輸送の必要性から、代替バスでは輸送力を確保するために必要な車両数、これら車両確保に必要な運行経費、一般道路走行における定時性の確保等の課題が存在する一方、名鉄広見線活性化協議会において各種取り組み実績、沿線居住者・利用者の存続意向が示されており、これらを総合的に勘案し、名鉄広見線は鉄軌道路線として確保・維持することを前提とする。
- ・名鉄広見線を地域の東西公共交通軸、新トンネルを活用した広域バス路線を地域東部の南北軸として位置付け、地域内外の移動需要への対応を図る。
- ・東鉄バス八百津線は、美濃加茂市方向を接続する幹線バスとして既存路線の維持を図り、八百津ファミリーセンターにおいて、広域バス路線との連携を図る。
- ・YAO バスは、広域バス路線運行後の利用実態等の変化を踏まえ、将来的には可児市さつきバス兼山線を含めた地域公共交通ネットワーク形成の中で路線再編の必要性を検討する。
- ・各市町が運行するコミュニティバスは、名鉄広見線各駅や八百津町ファミリーセンター、花フェスタ記念公園等主要集客施設において、公共交通相互の連携を図るとともに、路線再編の必要性を検討する。
- ・名鉄広見線の各駅は、公共交通相互の乗り継ぎ利便性の確保とともに、他の交通モードとの連携を図る。

出典：名鉄広見線とバス交通の連携向上による広域交通網形成に関する基礎調査業務報告書（H28.3）



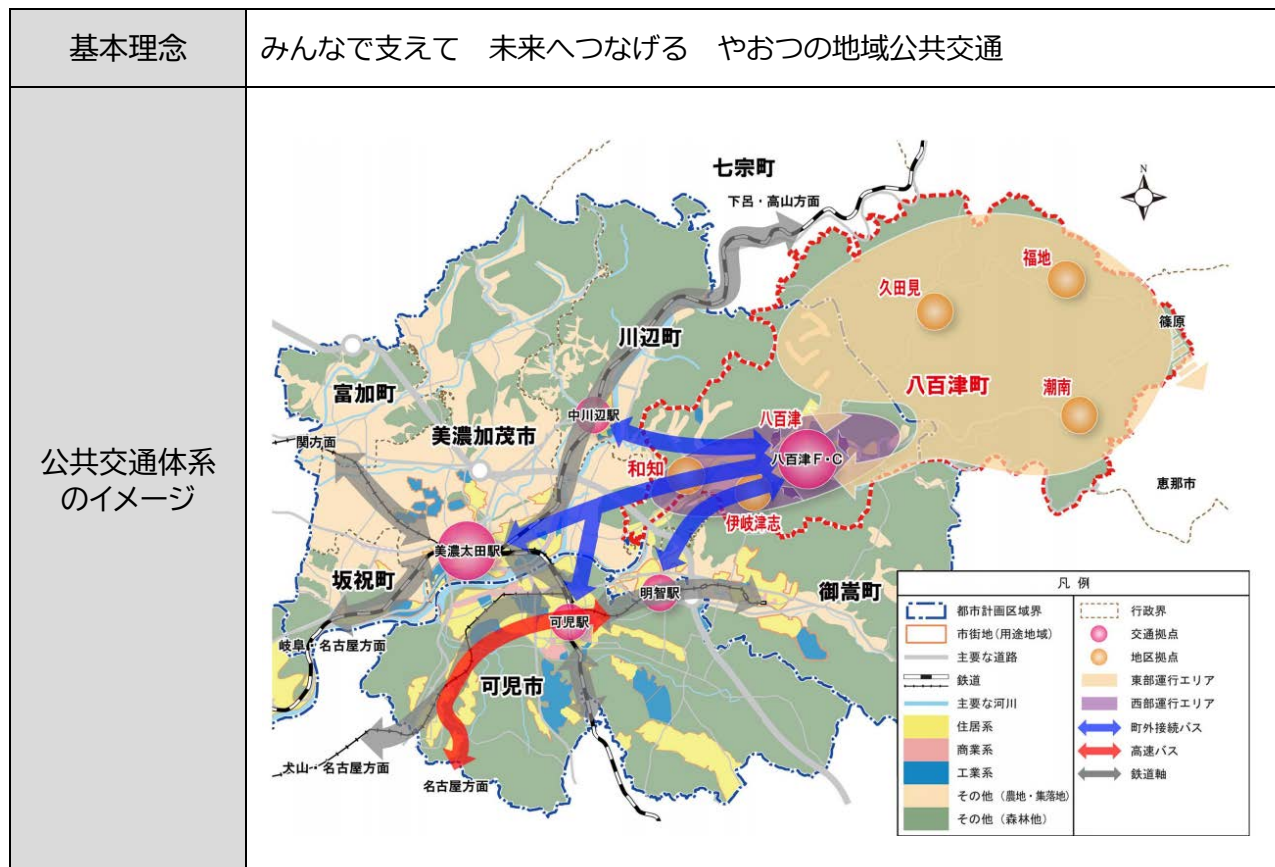
5) 周辺自治体の公共交通の計画

① 可児市地域公共交通網形成計画



出典：可児市地域公共交通網形成計画 (R1. 7)

②八百津町地域公共交通網形成計画



出典：八百津町地域公共交通網形成計画(R1.6)

(3)公共交通の現状整理

1)サービス水準

①名鉄道広見線

表1-1 名鉄広見線の運行体系

路 線 名		運行本数 (本/日)		御嵩町内駅 発着時間帯	運賃体系
		平日	休日		
新可児－御嵩	御嵩方面	40	36	5-23時台	距離制
	新可児方面	40	36	5-22時台	

資料：名古屋鉄道（令和2年3月現在）

②ふれあいバス

表1-2 ふれあいバスの運行体系

路線名	運行本数 (平日)		運行所要 時間	運行時間帯		運賃
				始発	終着	
みたけ・なか線	7		38分	8：30	16：08	100円
工業団地・南台線	朝3	夕7	28分	6：45	20：04	

資料：御嵩町（令和2年3月現在）

③ふれあい予約バス

表1-3 ふれあい予約バスの運行体系

路線名	運行本数 (平日)	予約締切	運行時間帯		運賃
			始発	終発	
ふしみ線	9	各便出発30分 前まで	8：30	16：30	200円
かみのごう線 みぎまわり	5		8：30	16：30	
かみのごう線 ひだりまわり	4		9：30	15：30	

資料：御嵩町（令和2年3月現在）

④YAO バス

表1-4 YAOバスの運行体系

路 線 名		運行本数 (本/日)		運行所要 時間	明智駅 発着時間帯	運賃体系
		平日	休日			
八百津町ファミリーセンター － 名鉄明智駅	明智方面	21	17	25分	6-21時台	距離制
	八百津方面	21	17	25分	6-21時台	

資料：八百津町（令和2年3月現在）

2)これまでの取り組み

御嵩町では、名鉄広見線を軸としてふれあいバス、ふれあい予約バスの運行を開始し、これまで運行ルートやダイヤ、停留所の位置など、様々な見直しをして利便性を向上してきました。

表1-5 御嵩町及び周辺市町における公共交通に係る取り組みの経緯

2007 年 6 月	名鉄より名鉄広見線沿線自治体に対して路線維持存続についての申し入れ
2008 年 6 月	名鉄広見線新可児駅以西への直通運転の中止 新可児駅—御嵩駅間でワンマン運転開始
2008 年 10 月	「名鉄広見線の利用促進に向けた基礎調査」実施
2009 年 12 月	「名鉄広見線活性化計画策定調査」実施
2010 年度～ 2012 年度	「名鉄広見線活性化計画」策定（3年サイクルで計画の見直し・更新）
2012 年 3 月	「御嵩町地域公共交通計画」策定
2013 年度～ 2015 年度	「名鉄広見線活性化計画」策定（3年サイクルで計画の見直し・更新）
2013 年 4 月	ふれあいバス・ふれあい予約バス再編運行開始（バスは6月まで、予約バスは10月まで試験運行期間） ふれあいバス7路線（各路線とも1～2曜日・2～4便/日 運行）から ふれあいバス2路線（月～金曜日・7～10便/日 運行）・ふれあい予約バス2路線（月～金曜日・8便/日 運行）へ再編
2014 年 4 月	ふれあいバス（みたけ・なか線）運行ルート見直し ふれあい予約バス運行見直し（停留所の増設、昼間の増便、予約締切時間の延長）
2016 年度～ 2018 年度	「名鉄広見線活性化計画」策定（3年サイクルで計画の見直し・更新）
2016 年 4 月	ふれあい予約バス 停留所の増設
2018 年 4 月	ふれあい予約バス 停留所の増設
2019 年 4 月	ふれあい予約バス 停留所の増設
2019 年度～ 2021 年度	「名鉄広見線活性化計画」策定（3年サイクルで計画の見直し・更新）

3)公共交通の現状

町中心部の御嵩駅を終点に名鉄広見線が運行しており、町内3駅の年間利用者数は、平成25～26年において減少しましたが、その後は横ばい傾向となっています。平成29年は約89万5千人が利用しています。

ふれあいバス・ふれあい予約バスの年間利用者数は、H25～29年において横ばいに推移し、平成29年は計約23万人の方に利用されています。

YAOバスを含めた御嵩町内路線は、年間約100万人の方に利用されています。

図1-9 路線別利用者数の推移

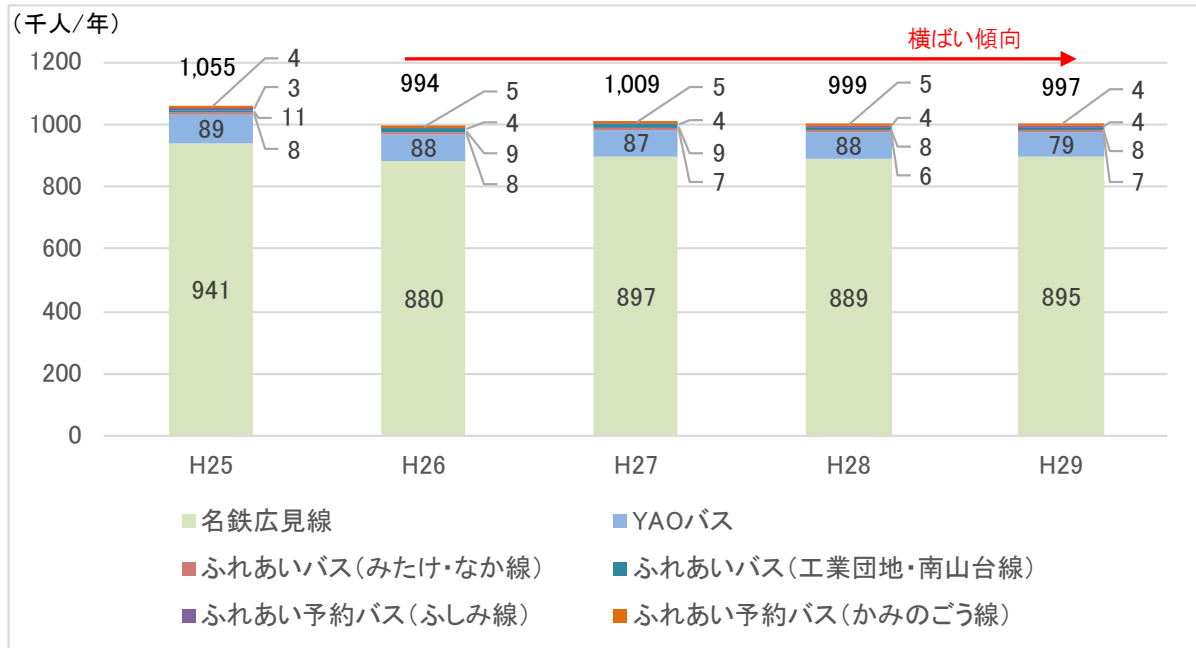
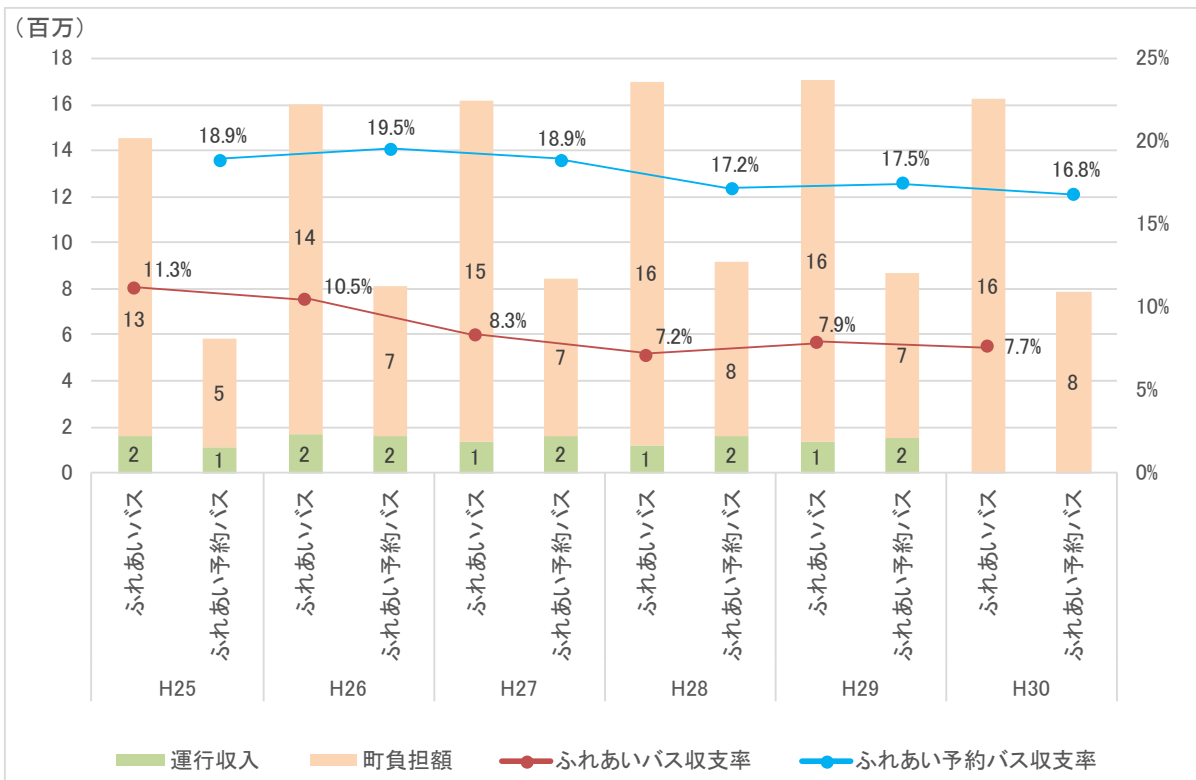


図1-10 ふれあいバス及びふれあい予約バス運行経費等の推移



2 ニーズ調査の実施・分析

(1)住民アンケート

1)調査概要

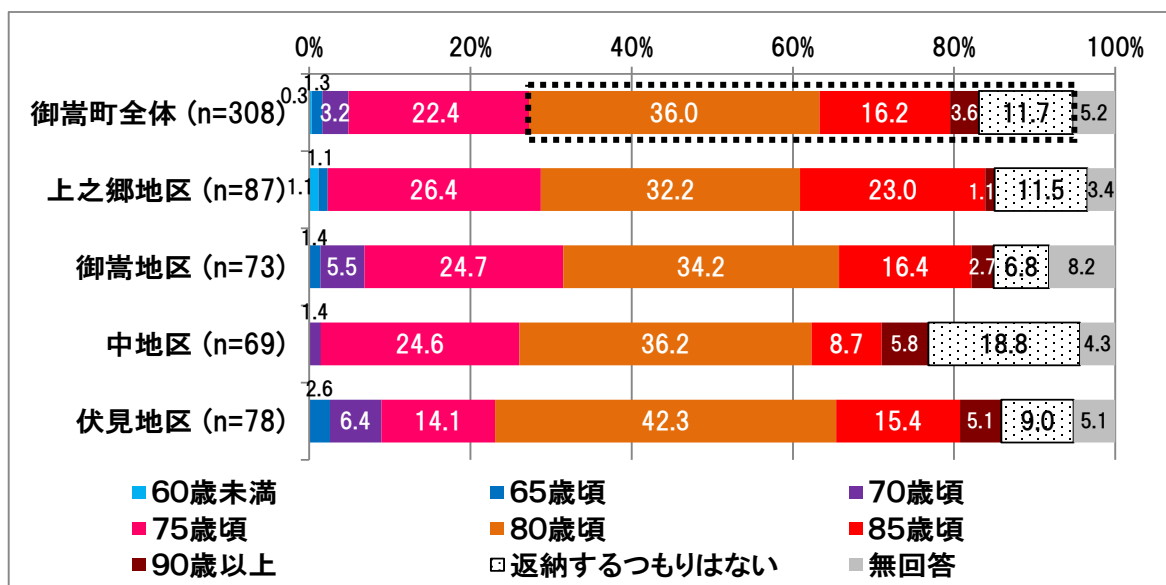
項 目	内 容
調査目的	住民の生活圏、交通圏、利用条件、利用意向、費用負担のあり方等の把握
調査対象	御嵩町在住の15歳以上の方
配布数	1,700通
調査方法	調査対象者の中から無作為に抽出し、郵送による配布、回収
調査時期	令和元年7月22日（発送）～8月5日（回答期限）
回収結果	回収数：609件／回収率：35.8%

2)調査結果

①運転免許証を返納した(しようと思う)年齢

「80歳頃」が36.0%と最も高く、「80歳以上になっても運転免許証保有」が67.5%を占めています。

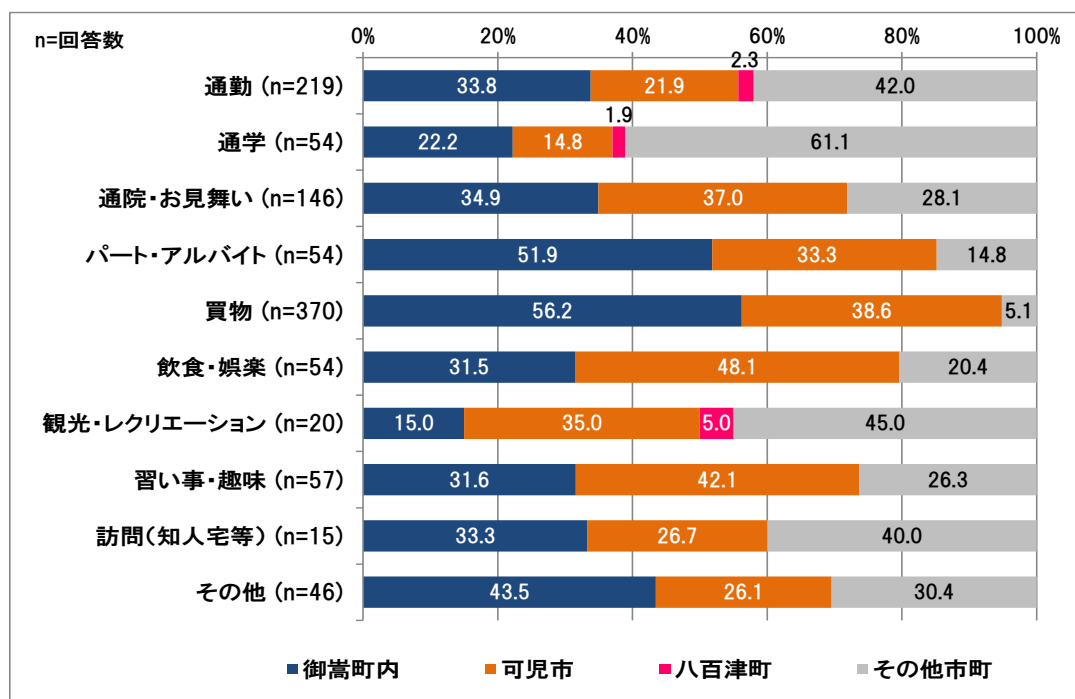
▼運転免許証を返納した(しようと思う)年齢



②日頃の外出の目的地

「買物」、「パート・アルバイト」目的では、「御嵩町内」が約 52～56%を占める一方、「飲食・娯楽」、「観光・レクリエーション」、「習い事・趣味」目的では、「可児市」が「御嵩町内」を大幅に上回っています。

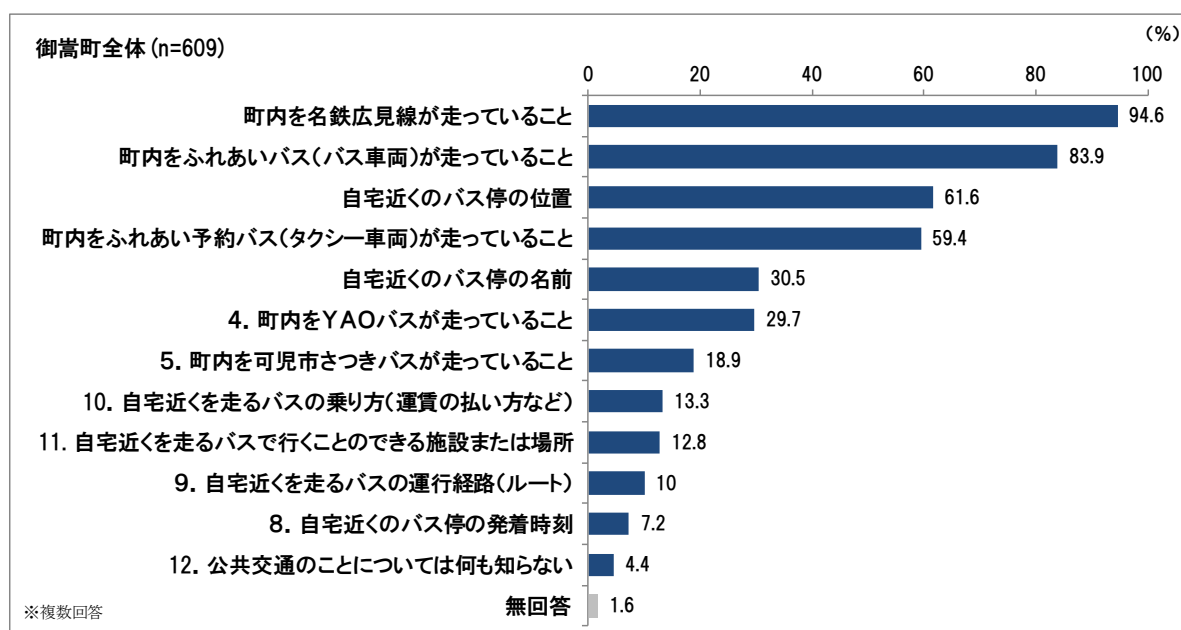
▼日頃の外出の目的地



③御嵩町の公共交通についての認知度

「町内を名鉄広見線が走っていること」が 94.6%と最も高く、次いで「町内をふれあいバス（バス車両）が走っていること」が 83.9%を占めています。

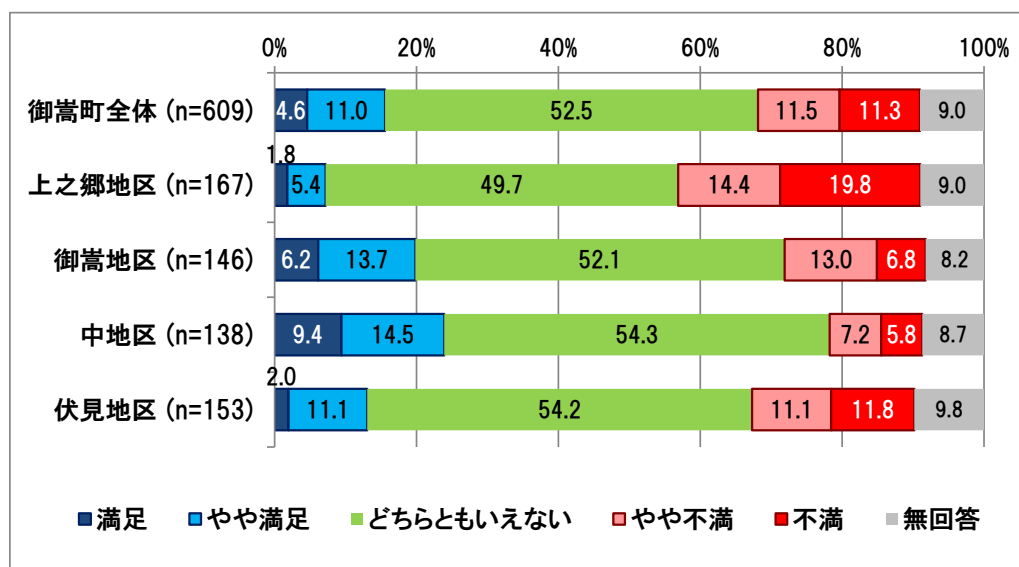
▼御嵩町の公共交通についての認知度



④御嵩町の公共交通全体の満足度

「不満」+「やや不満」22.8%が「満足」+「やや満足」15.6%を上回っています。

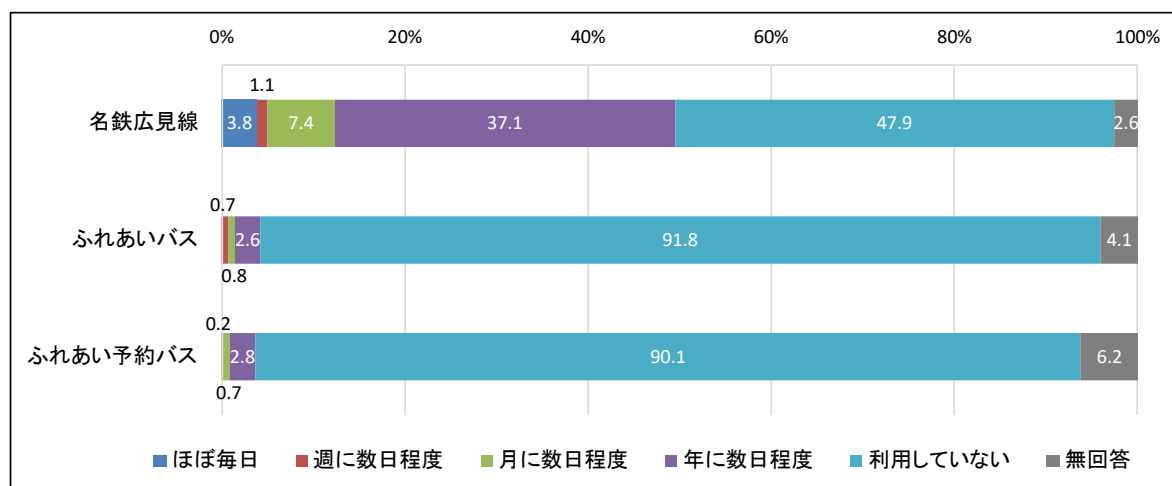
▼御嵩町の公共交通全体の満足度



⑤御嵩町の公共交通全体の利用頻度

各公共交通を「年に数日程度」以上利用する人は、「名鉄広見線」49.4%、「ふれあいバス」4.1%、「ふれあい予約バス」3.7%となっています。

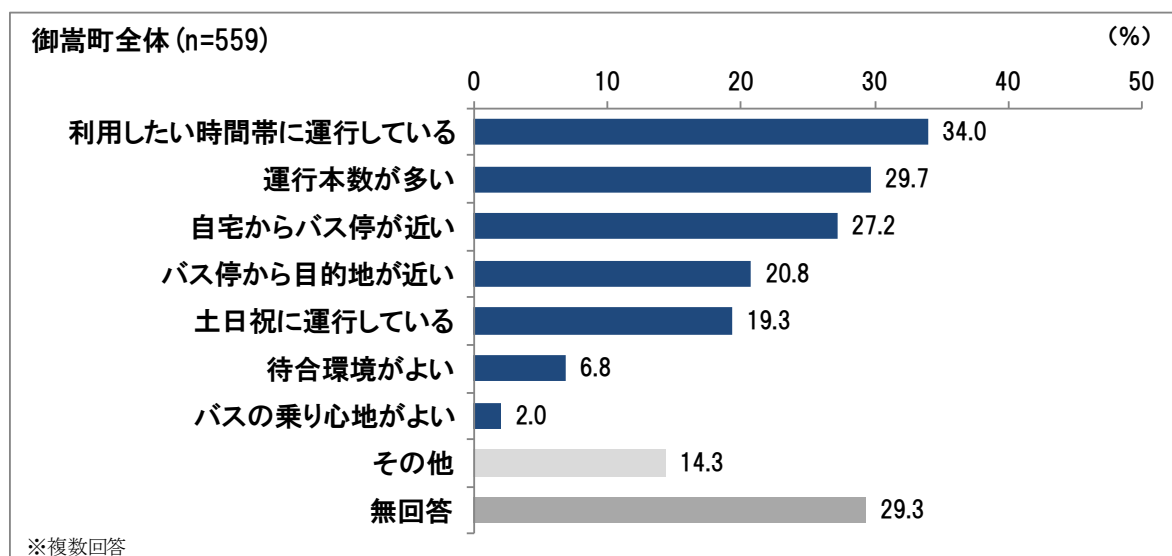
▼御嵩町の公共交通の利用頻度



⑥ふれあいバスを今後利用するための条件

現在ふれあいバスを利用していない人が、今後利用するための条件は、「利用したい時間帯に運行している」が34.0%と最も高く、次いで「運行本数が多い」が29.7%を占めています。

▼ふれあいバスを今後利用するための条件（非利用者）



⑦おすすめしたい周辺の観光地

1位は可児市の「花フェスタ記念公園」、2位は八百津町の「人道の丘公園／杉原千畝記念館」、3位は御嵩町の「鬼岩公園」となっています。

▼おすすめしたい周辺の観光地

おすすめスポット	票数
花フェスタ記念公園	168
人道の丘公園／杉原千畝記念館	101
鬼岩公園	82
みたけの森	63
願興寺	55
中山道	50
丸山ダム	28
五宝滝	25
ラ・プロヴァンス	14
中山道みたけ館	13
愚溪寺	13

(2)住民アンケート(高齢者)

1)調査概要

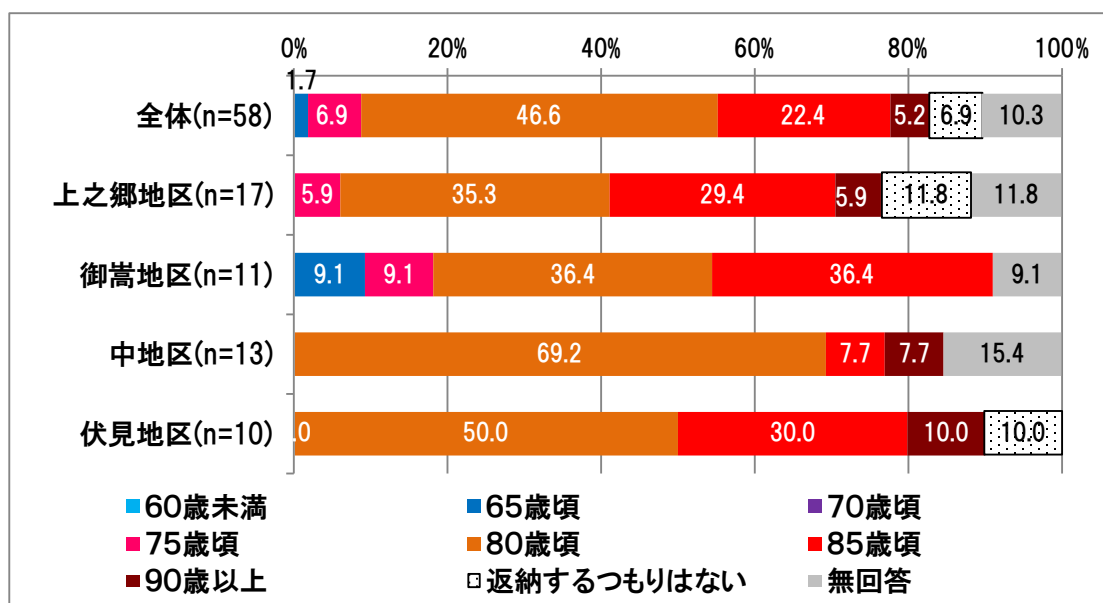
項 目	内 容
調査目的	住民の生活圏、交通圏、利用条件、利用意向、費用負担のあり方等の把握
調査対象	御嵩町在住の 50 歳以上の方
配布数	86 通
調査方法	直接配布、回収
調査時期	令和元年 9 月
回収結果	回収数：86 件

2)調査結果

①運転免許証を返納した(しようと思う)年齢

「80歳頃」が約47%と最も高く、「80歳以上になっても運転免許証保有」が約81%を占めています。

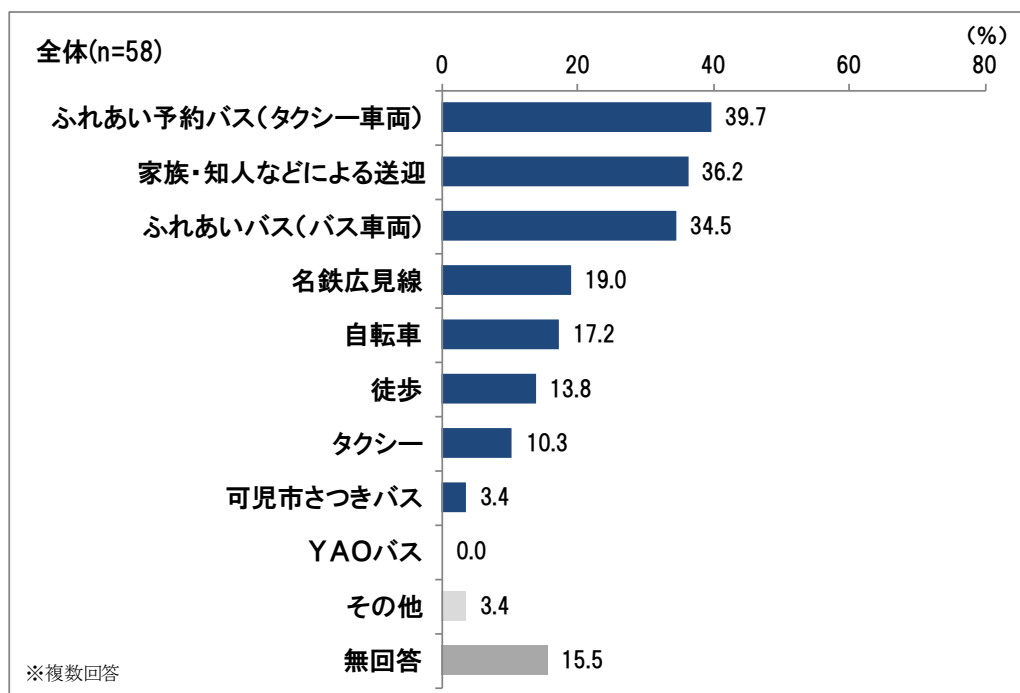
▼運転免許証を返納した(しようと思う)年齢



②運転免許証返納後に利用している(したい)移動手段

「ふれあい予約バス」が約40%と最も高く、次いで「家族・知人などによる送迎」が約36%を占めています。

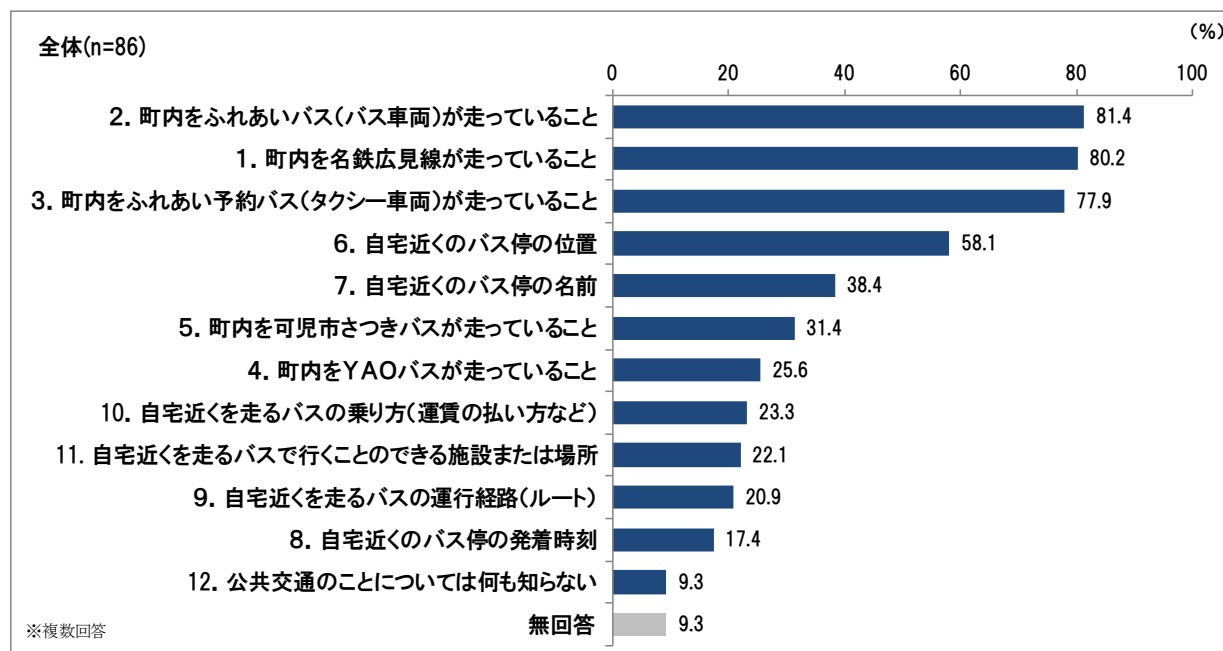
▼運転免許証返納後に利用している(したい)移動手段



③御嵩町の公共交通についての認知度

「町内をふれあいバス(バス車両)が走っていること」が約81%と最も高く、次いで「町内を名鉄広見線が走っていること」が約80%を占めています。

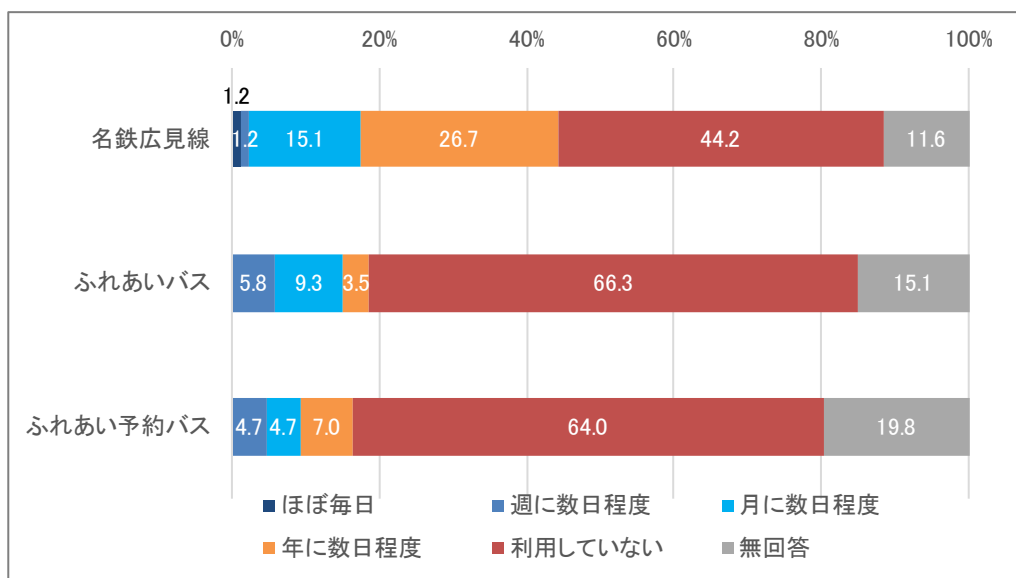
▼御嵩町の公共交通についての認知度



④御嵩町の公共交通全体の利用頻度

各公共交通を「年に数日程度」以上利用する人は、「名鉄広見線」44.2%、「ふれあいバス」18.6%、「ふれあい予約バス」16.4%となっています。

▼御嵩町の公共交通の利用頻度



(3)利用者アンケート

1)調査概要

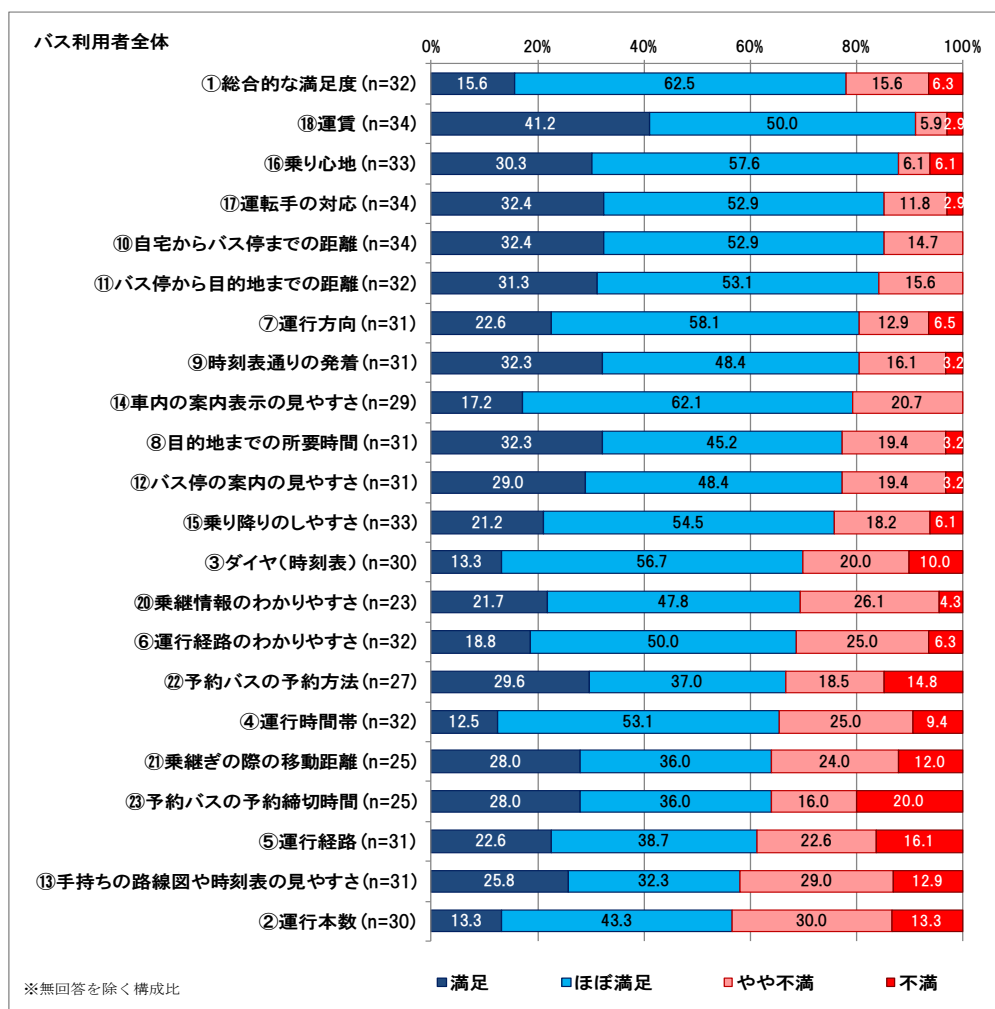
項 目	内 容
調査目的	利用者の公共交通の満足度、改善事項、利用促進のアイデアなどの把握
調査対象	ふれあいバス・ふれあい予約バス利用者
調査方法	調査期間内のバス車内にて配布、郵送回収
調査時期	ふれあいバス：令和元年 7 月 16 日
	ふれあい予約バス：令和元年 7 月 16～19, 22 日
回収結果	回収数：42 件

2)調査結果

①利用したバス路線についての「現状の満足度」と「これからの重要度」

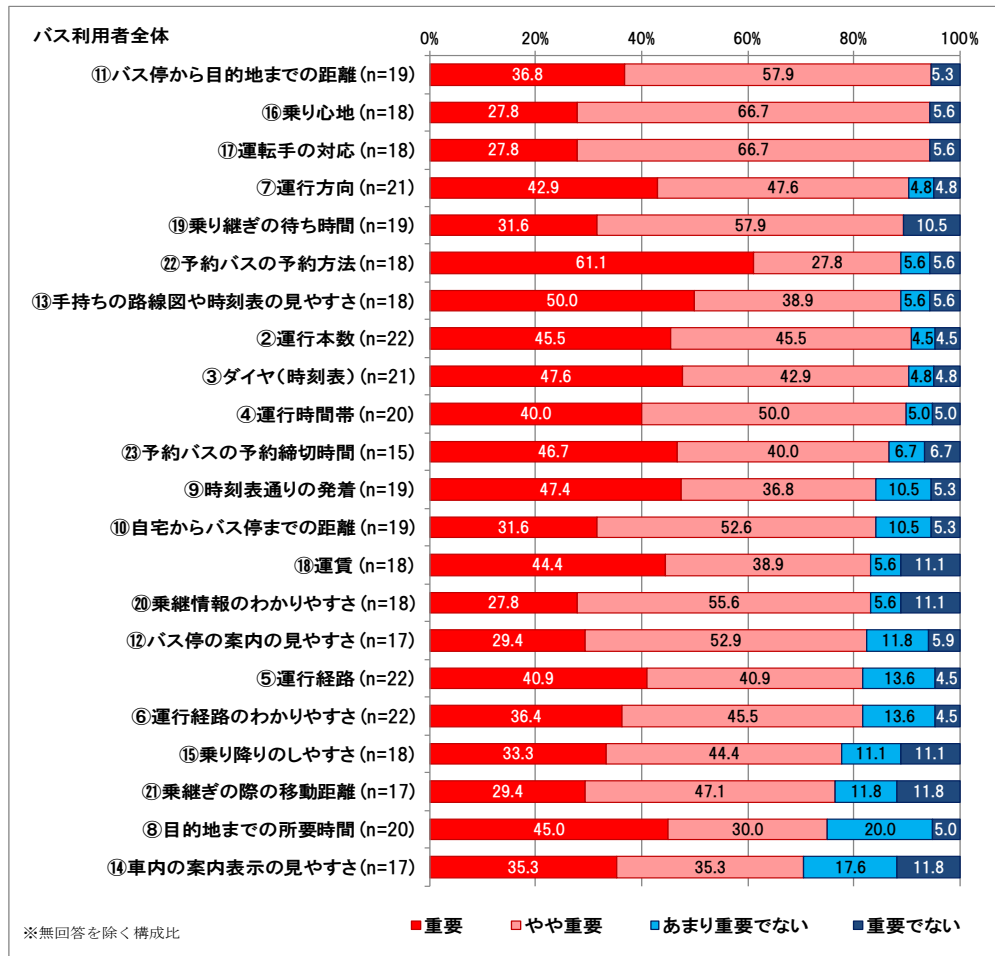
満足度では、「⑩運賃」91.2%で最も満足度が高くなっており、次いで「⑩乗り心地」87.9%となっています。一方、「⑨乗り継ぎの待ち時間」50.0%、次いで「②運行本数」43.3%、「⑬手持ちの路線図や時刻表の見やすさ」は 41.9%が不満としています。

▼利用したバス路線についての「現状の満足度」



重要度では、「⑪バス停から目的地までの距離」を約 95%が最も重要としており、次いで「⑯乗り心地」「⑰運転手の対応」は約 94%が重要としています。

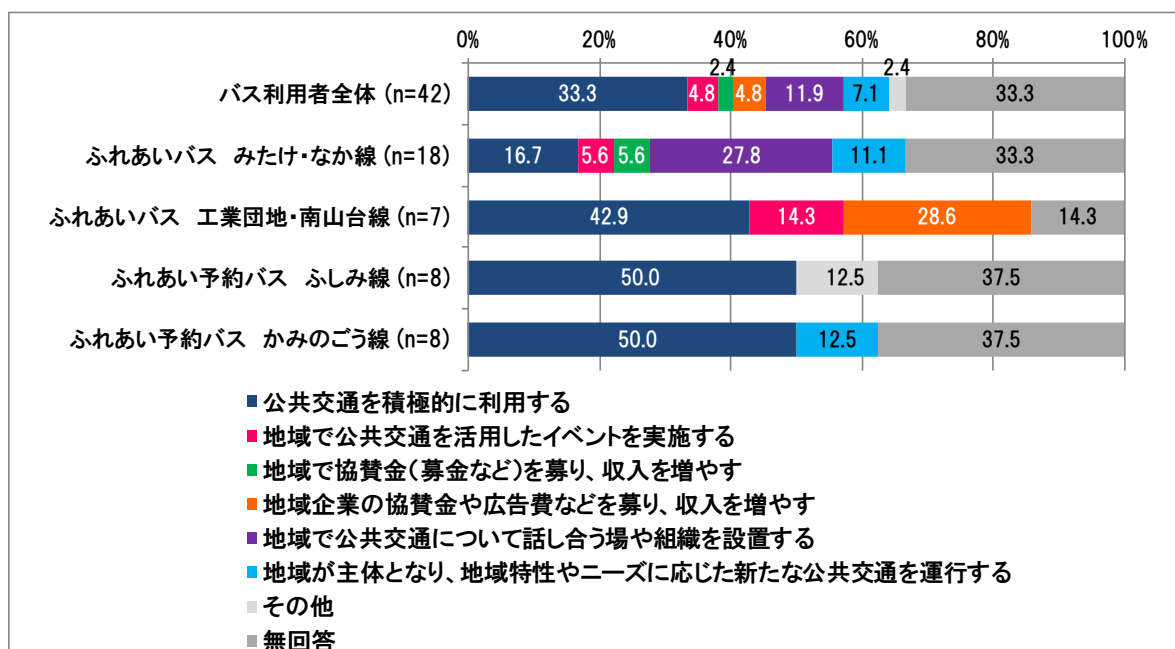
▼利用したバス路線についての「これからの重要度」



②公共交通を確保・維持するために取り組める内容

「公共交通を積極的に利用する」が約 33%と最も高く、次いで「地域で公共交通について話し合う場や組織を設置する」が約 12%を占めています。

▼公共交通を確保・維持するために取り組める内容



(4)乗降調査

1)調査概要

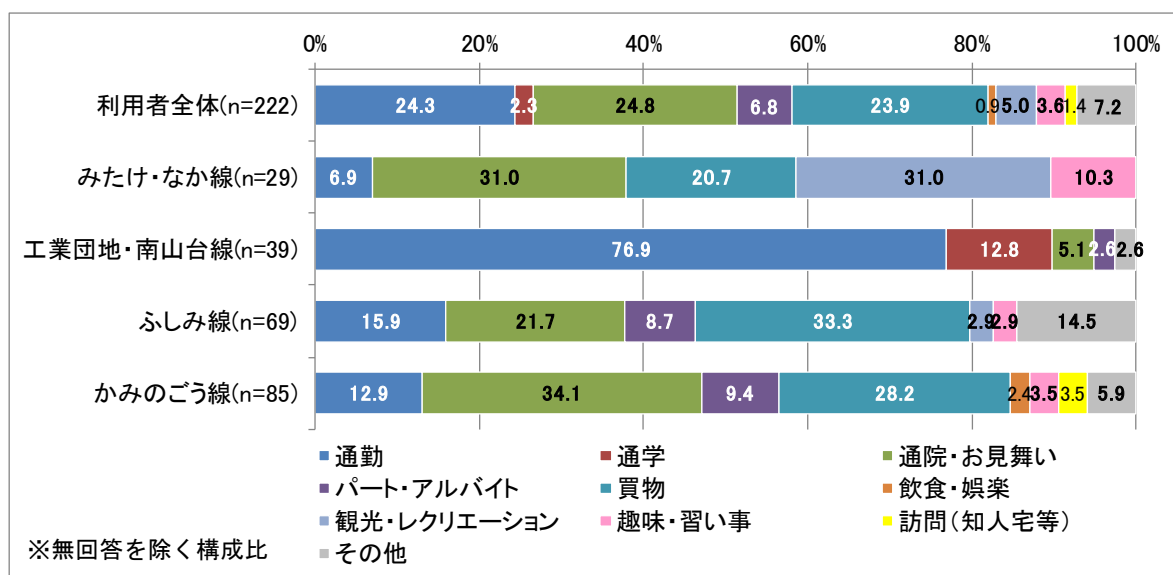
項 目	内 容
調査目的	路線別、便別、停留所別の利用実態及び公共交通相互の乗継利用等の把握
調査対象	ふれあいバス・ふれあい予約バス利用者
配布数	ふれあいバス（みたけ・なか線、工業団地・南山台線）：69 通
	ふれあい予約バス（ふしみ線、かみのごう線）：156 通
調査方法	調査期間内のバス車内にて OD カードを配布、回収
調査時期	ふれあいバス：令和元年 7 月 16 日
	ふれあい予約バス：令和元年 7 月 16～19, 22 日

2)調査結果

①バスの利用目的

利用者全体では、「通勤」の割合が 24.3%と最も高く、次いで「通院・お見舞い」の割合が 24.8%となっています。工業団地・南山台線では「通勤」の割合が特に高く、76.9%を占めています。

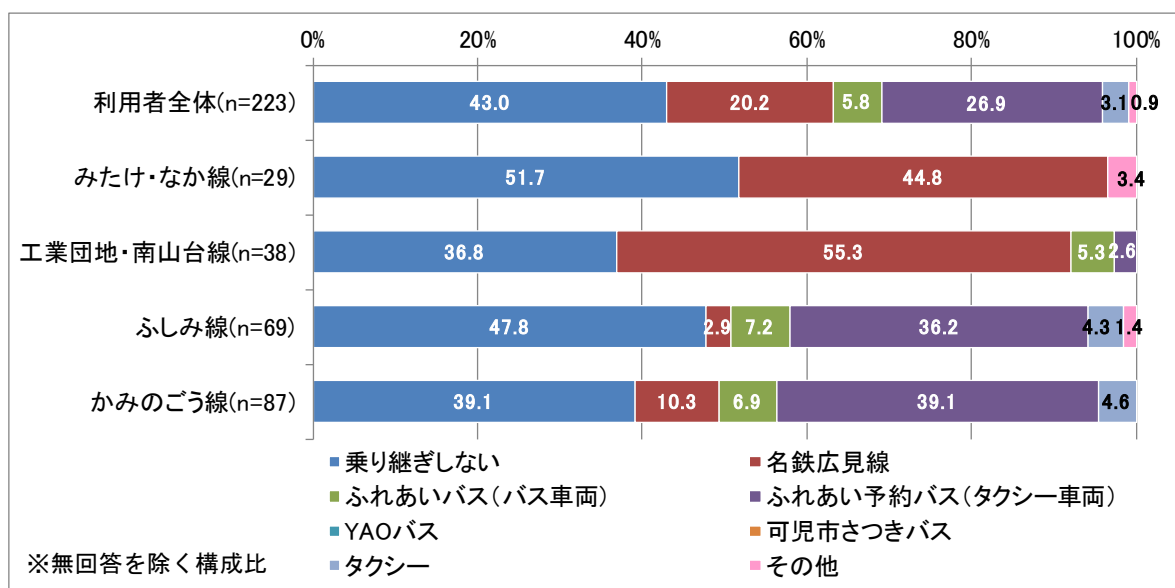
▼利用目的



②他路線への乗り継ぎ

利用者全体では「乗り継ぎしない」が最も高く 43.0%となっていますが、ふれあいバスは「名鉄広見線」、ふれあい予約バスは「ふれあい予約バス」の割合が高くなっています。

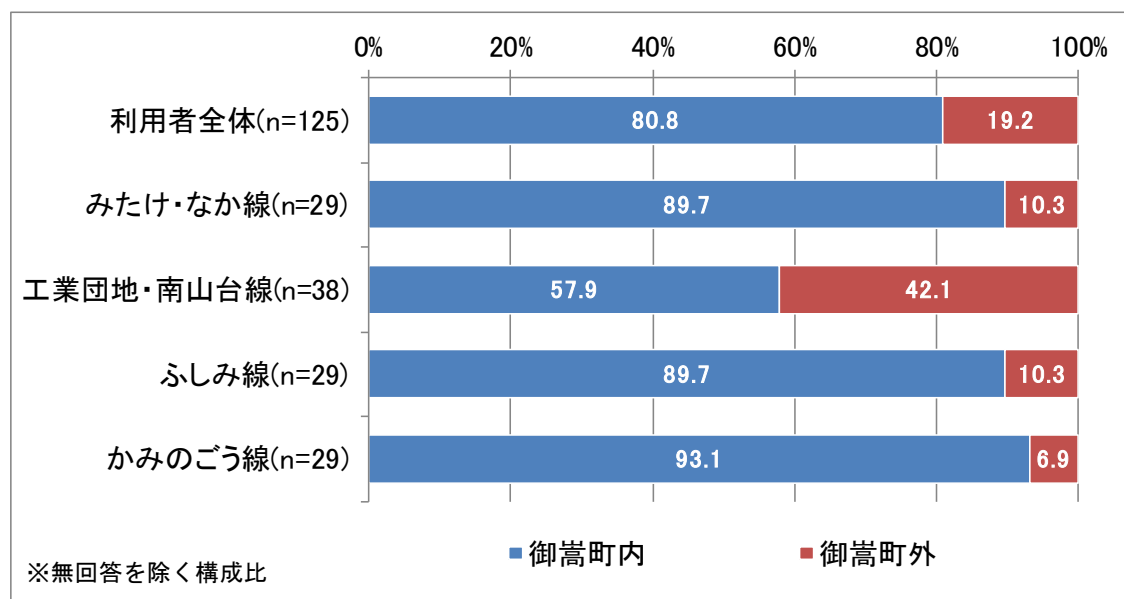
▼他路線への乗り継ぎ



③最終目的地

「御嵩町内」の割合が 80.8%と高くなっています。工業団地・南山台線では「御嵩町外」の割合が高く、42.1%を占めています。

▼最終目的地



3 御嵩町における地域公共交通の課題

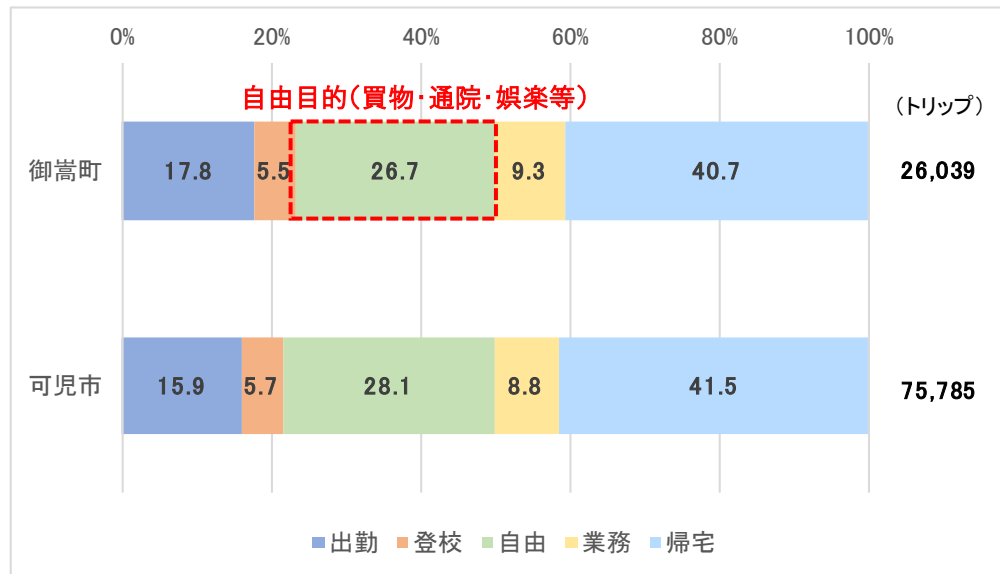
(1) 各種調査結果からみた課題の抽出

御嵩町の概況や各種ニーズ調査結果からみられる傾向や動向を抽出するとともに、そこから導かれる地域公共交通の課題（集約課題）を整理します。

調査分類	御嵩町の概況や各種ニーズ調査結果からみられる傾向や動向	集約課題 との対応
御嵩町の概況	・御嵩町の人口は、平成 7 年をピークに減少しており、2040 年には 15,000 人を下回る中、65 歳以上人口は割合、実数共に増加傾向	①
	・名鉄広見線、ふれあいバス、ふれあい予約バスによる御嵩町人口カバー率は約 89%（鉄道駅から 800m、バス停、乗降場から半径 300mの利用圏域）（図 3-11）	①
	・主要集客施設は公共交通利用圏域に概ね内包されている（図 3-11）	①
	・通勤・通学流動は可児市、八百津町との結びつきが強い（図 3-9）	③
	・町民の移動目的は、自由目的（買物、通院、習い事、食事など）の割合が増加し、代表交通手段は自動車の利用割合が増加（図 3-1）	①
上位・関連計画	・御嵩町第五次総合計画では公共交通に対する基本計画として、ふれあいバス・ふれあい予約バスの利用者数 29,000 人を目標としている	②
	・御嵩町都市計画マスタープランでは、御嵩駅周辺は歴史文化交流拠点と位置付けられ、駅周辺の整備や公共交通の利便性向上を方針としている（図 3-5）	②
	・名鉄広見線活性化計画では、地域内外の利用促進、地域にとって必要な社会インフラである認識を高めることを目標としている	②④
	・名鉄広見線とバス交通の連携向上による広域交通網形成に関する基礎調査では、新トンネルの開通を踏まえて、日常生活と観光交流の視点で広域バス路線構成案が検討されている	③
	・可児市の地域公共交通網形成計画では、御嵩町に連絡する名鉄広見線が公共交通軸として位置づけられている	③
	・八百津町の地域公共交通網形成計画では、御嵩町を連絡する YAO バスが、八百津町交流拠点と明智駅を結ぶ広域公共交通路線として位置づけられている	③
	・福祉分野の計画として、高齢者の買物需要に対応したサービスが実施されている	②③
公共交通の現状	・公共交通の利用者数（平成 29 年度）は、名鉄広見線で約 895,000 人、ふれあいバスで約 15,000 人、ふれあい予約バスで約 8,500 人となっており、推移は横ばい傾向（図 3-8）	③
	・ふれあい予約バスの乗合率は、運行開始から 2.0（人／台）以上を維持しており、令和元年 9 月時点では 2.3（人／台）となっている	③
	・運行経費は年々増加傾向にあり、平成 29 年度経費は、ふれあいバス約 1700 万円、ふれあい予約バス約 920 万円	③
住民アンケート	・自家用車の利用頻度は、67.5%の方が「ほぼ毎日」と回答しており、週に一回以上の利用者が 88.9%を占める	④
	・80 歳以上になっても 67.5%が運転の意向をもつ。運転免許証を返納した後の移動手段については、「家族・知人などによる送迎」が最も多く 43.5%、「名鉄広見線」39.0%、「ふれあい予約バス」37.7%、「ふれあいバス」36.7%（図 3-12）	①
	・普段の外出の目的地について「買物」「パート・アルバイト」目的では御嵩町内が約半数を占めるが、「飲食・娯楽」「観光・レクリエーション」「習い事・趣味」目的では可児市が町内を大幅に上回る（図 3-2）	②③
	・公共交通に関する認知度について「町内を名鉄広見線が走っていること」の認知度は 94.6%、「町内をふれあいバスが走っていること」は 83.9%、「町内をふれあい予約バスが走っていること」は 59.4%である。「自宅近くを走るバスで行くことのできる施設」は 12.8%に留まる（図 3-10）	④
	・公共交通全体の満足度は、満足（満足＋やや満足）15.6%＜不満（やや不満＋不満）22.8%	①④
	・名鉄広見線を「年に数日程度」以上利用する人は 49.4%で、満足度は、満足（満足＋やや満足）47.8%＞不満（やや不満＋不満）20.3%。非利用者の今後の利用条件は「自宅などから駅までの移動手段がある」が高い（図 3-13）	①
	・ふれあいバスを「年に数日程度」以上利用する人は 4.1%で、満足度は、満足（満足＋やや満足）40.0%＞不満（やや不満＋不満）16.0%。非利用者の今後の利用条件は「利用したい時間帯に運行している」が最も高く、次いで「運行本数が多い」「自宅からバス停が近い」（図 3-13）	①
	・ふれあい予約バスを「年に数日程度」以上利用する人は 3.7%で、満足度は、満足（満足＋やや満足）45.4%＞不満（やや不満＋不満）0%。非利用者の今後の利用条件は「利用したい時間帯に運行している」「予約が簡単」「運行本数が多い」が高い（図 3-13）	①

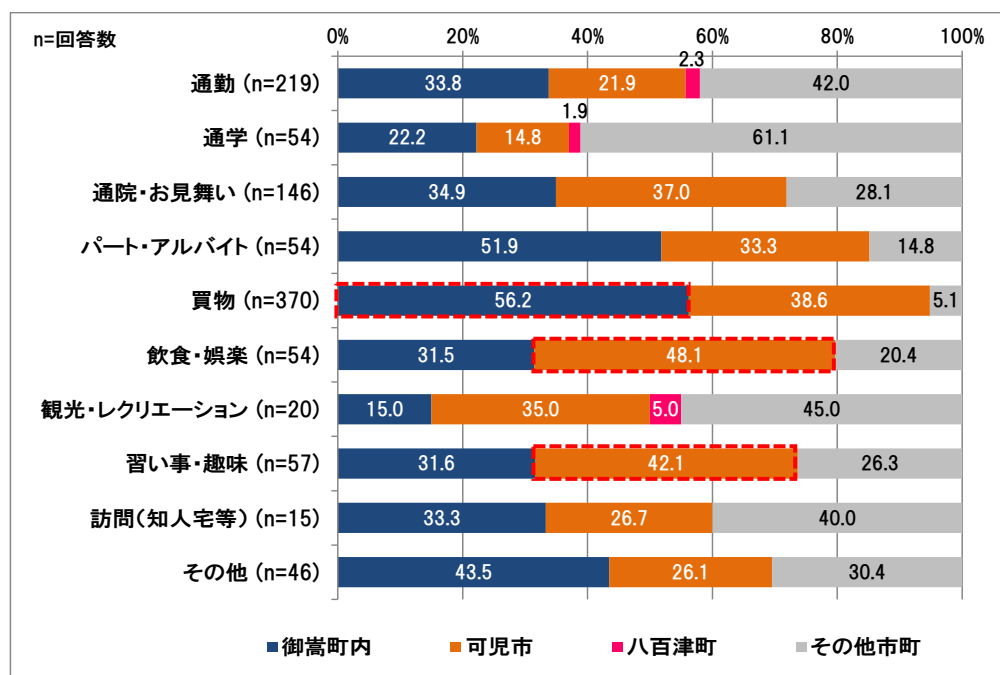
調査分類	御嵩町の概況や各種ニーズ調査結果からみられる傾向や動向	課題との対応
住民アンケート	・名鉄広見線に期待する役割について、1 位「通勤・通学するための交通手段」2 位「他の鉄道駅や広見線の駅へ行くための交通手段」3 位「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」	④
	・ふれあいバスに期待する役割について、1 位「通院・買い物するための交通手段」2 位「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」3 位「通勤・通学するための交通手段」	④
	・タクシーに期待する役割について、1 位「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」2 位「通院・買い物するための交通手段」3 位「普段は公共交通を利用していないが、いつでも利用できる安心感を与える役割」	④
	・公共交通の町支出額や運賃について、「高齢者などの交通弱者の移動手段確保のためなら、今と同程度の町支出額でよい」という意見が 27.3%ある一方で、「利用者を増やすことで収入を増やし、町支出額を減らすべき」が 25.0%ある	③
	・ふれあいバスの運賃は 100 円（現在）以下が 36.6%、101 円以上が 63.4%。ふれあい予約バスの運賃は、200 円（現在）以下が 49.2%、201 円以上が 50.8%。どちらも現状より多く支払ってもよいという回答が現状以下を大幅に上回る	③
	・公共交通を確保・維持するため協働・連携して取り組める内容について、「公共交通を積極的に利用する」19.2%、「地域で公共交通を活用したイベントを実施する」「地域企業の協賛金（募金など）を募り、収入を増やす」も多い（図 3-14）	③
利用者アンケート	・往復利用をしない理由は、「車で送迎してもらえるから」41.7%、「利用したい時間と合わないから」33.3%。	①④
	・バスの現状の総合的な満足度は、満足（満足＋やや満足）78.1%＞不満（やや不満＋不満）21.9%。「運賃」「乗り心地」は満足度が高いが、一方で「乗り継ぎの待ち時間」「運行本数」「手持ちの路線図や時刻表の見やすさ」は不満度が高い。これからの重要度は、「バス停から目的地までの距離」「乗り心地」「運転手の対応」が高い	①④
	・重要度が高く満足度が低い項目は、「運行本数」「ダイヤ」「運行時間帯」「手持ちの路線図や時刻表の見やすさ」「予約バスの予約方法」「予約バスの予約締め切り時間」（図 3-15）	④
	・公共交通の町支出額や運賃について、利用者は「公共交通をより便利にするために、町支出額を増やしてもよい」「高齢者などの交通弱者の移動手段確保のためなら、今と同程度の町支出額でよい」がともに 19.0%で最も多く、次いで「利用者を増やすことで収入を増やし、町支出額を減らすべき」が 16.7%	③
	・ふれあいバスの運賃は 100 円（現在）が 52.0%、101 円以上が 48.0%。ふれあい予約バスの運賃は、200 円（現在）以下が 60.0%、201 円以上が 40.0%	③
	・公共交通を確保・維持するため協働・連携して取り組める内容について、「公共交通を積極的に利用する」33.3%、「地域で公共交通について話し合う場や組織を設置する」11.9%（図 3-14）	③
乗降調査	・ふれあいバスみたけ・なか線：利用者は 70 歳代以上が 66.7%を占める。利用目的は「通院・お見舞い」「観光・レクリエーション」がともに 31.0%、利用頻度は「月に数日程度」が最も多く 60.0%。乗り継ぎを伴わない利用が 51.7%で、最終目的地は 89.7%が御嵩町内である（図 3-4,3-6,3-7）	①②
	・ふれあいバス工業団地・南山台線：利用者は 60 歳未満が 84.6%を占める。「通勤」を目的とした移動が 76.9%、次いで「通学」12.8%。利用頻度は「ほぼ毎日」が 73.7%で、名鉄広見線への乗り換え利用が 55.3%、最終目的地は 57.9%が町内である（図 3-4,3-6,3-7）	①②
	・ふれあい予約バスふしみ線：利用者は 70 歳代以上が 56.5%を占める。利用目的は「買物」30.5%、「通院・お見舞い」21.7%、利用頻度は「週に数日程度」が最も多く 50.0%。乗り継ぎを伴わない利用が 47.8%で、最終目的地は 89.7%が御嵩町内である	②
	・ふれあい予約バスかみのごう線：利用者は 70 歳代以上が 67.8%を占める。利用目的は「通院・お見舞い」34.1%「買い物」28.2%、利用頻度は「週に数日程度」が最も多く 48.2%。乗り継ぎを伴わない利用、予約バスへの乗り継ぎがともに 39.1%で、最終目的地は 93.1%が御嵩町内である	②

図 3-1 全手段目的別トリップ構成（再掲）



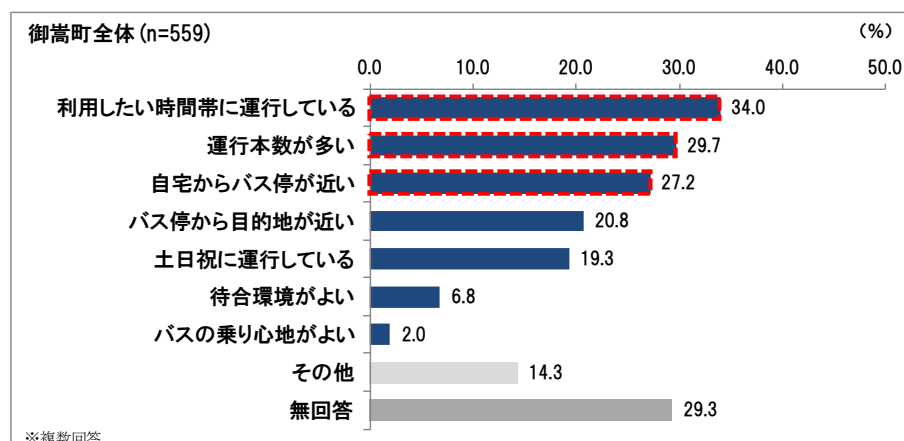
資料：第5回中京都市圏パーソントリップ調査

図 3-2 日頃の外出の目的地（再掲）



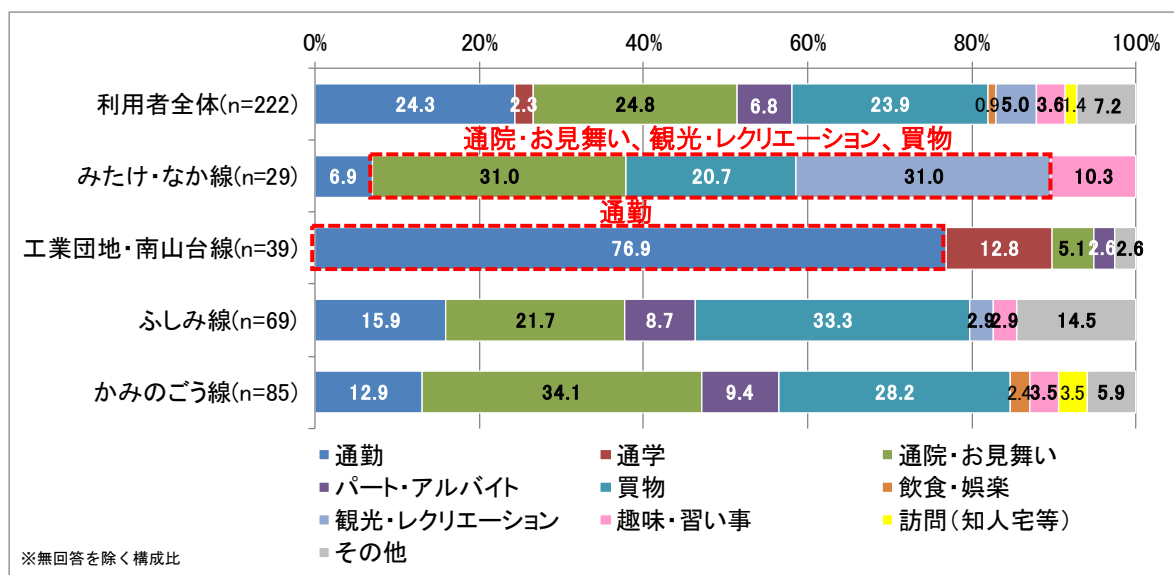
資料：住民アンケート調査

図 3-3 ふれあいバスを今後利用するための条件（非利用者）（再掲）



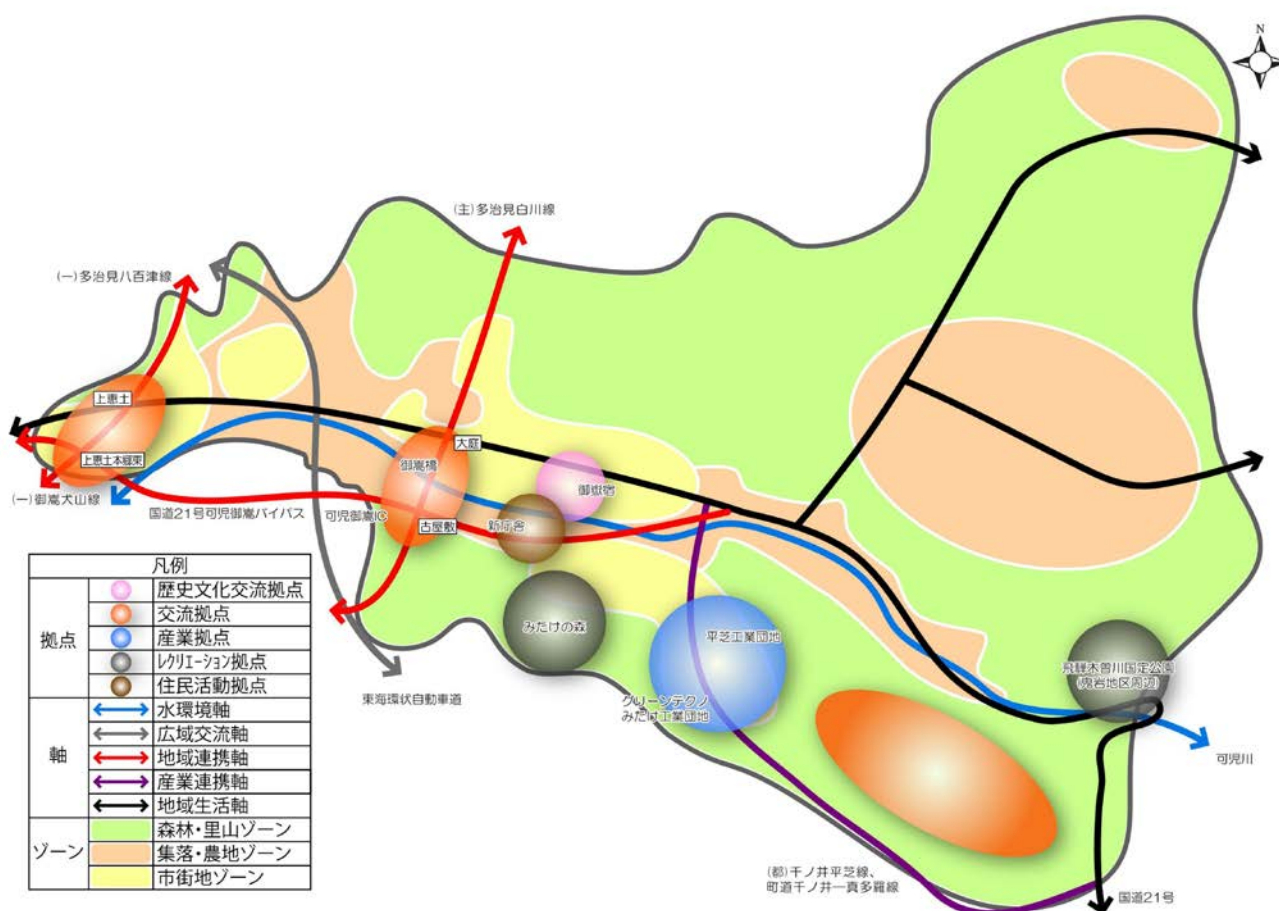
資料：住民アンケート調査

図 3-4 ふれあいバスの利用目的（再掲）



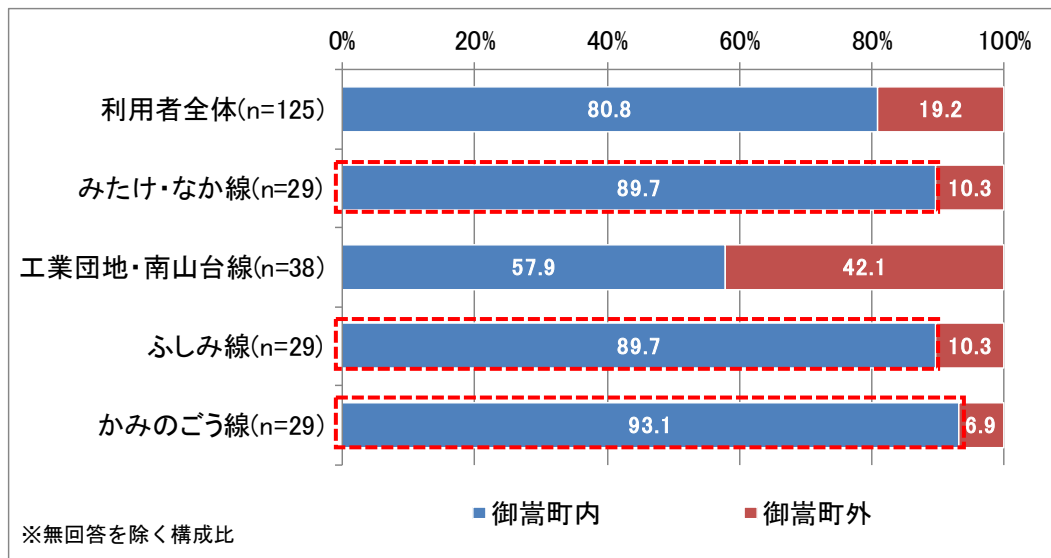
資料：乗降調査

図 3-5 将来都市構造図（再掲）



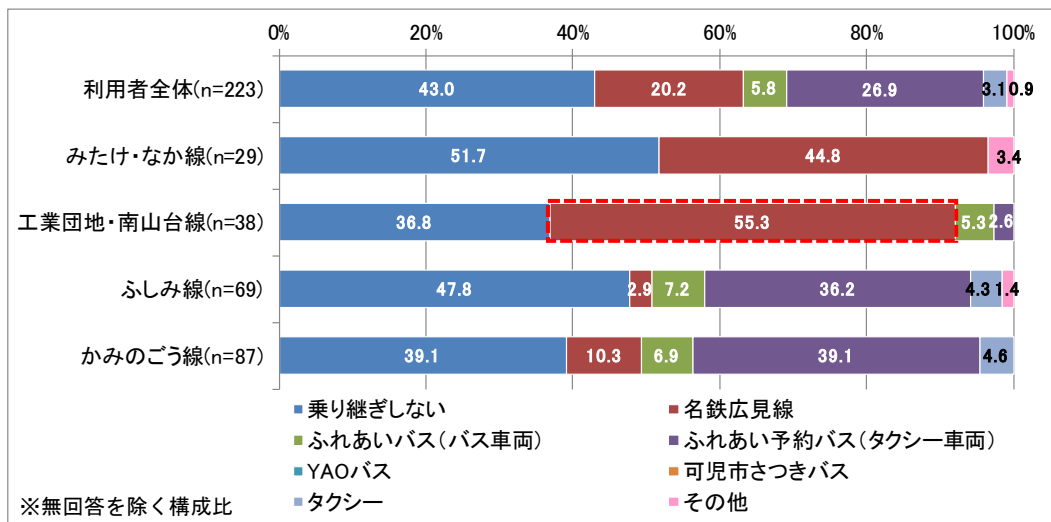
出典：御嵩町都市計画マスタープラン

図 3-6 ふれあいバスの最終目的地（再掲）



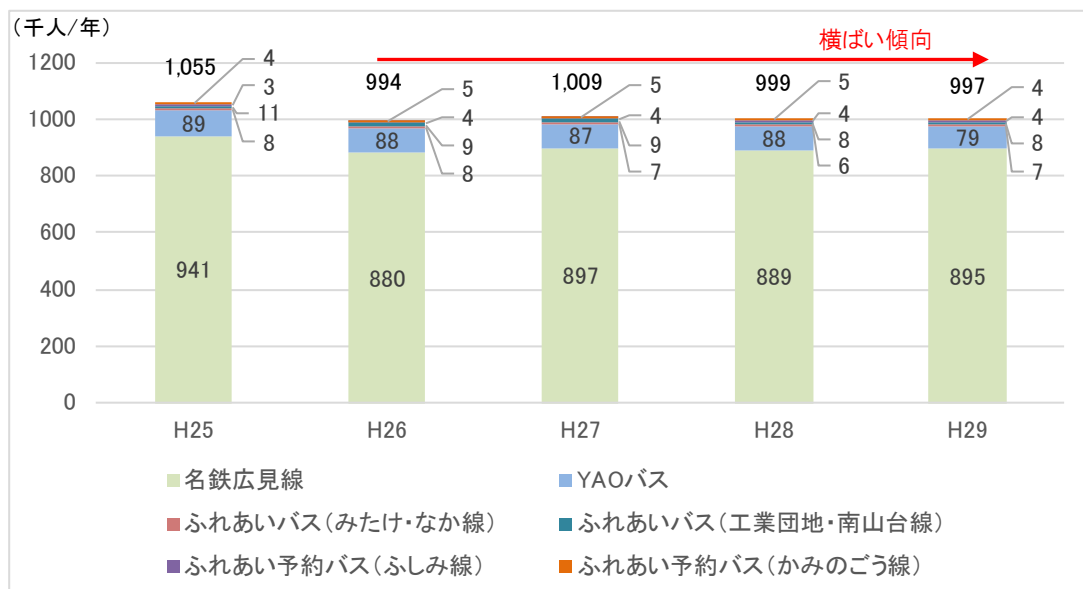
資料：乗降調査

図 3-7 他路線との乗り継ぎ（再掲）



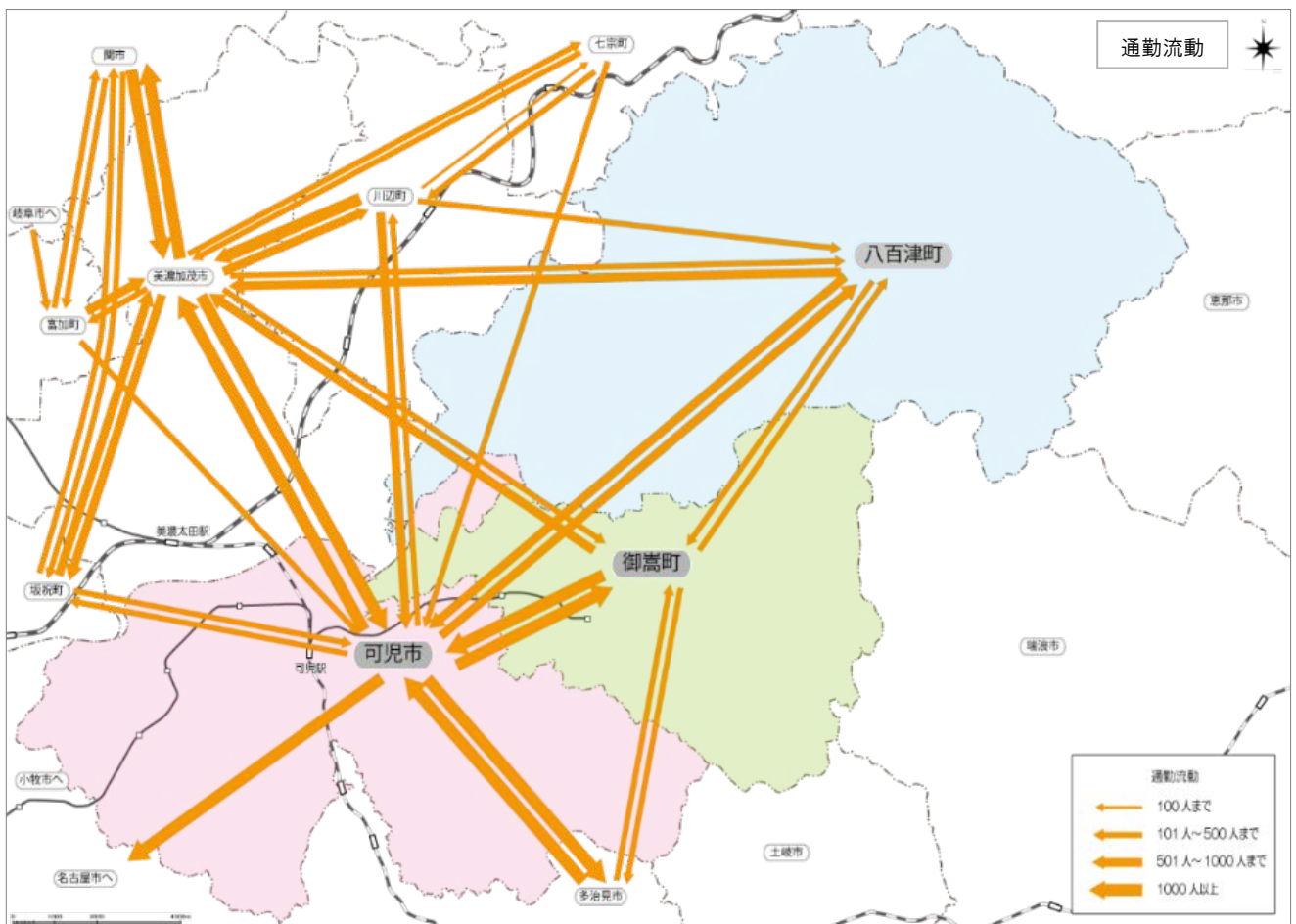
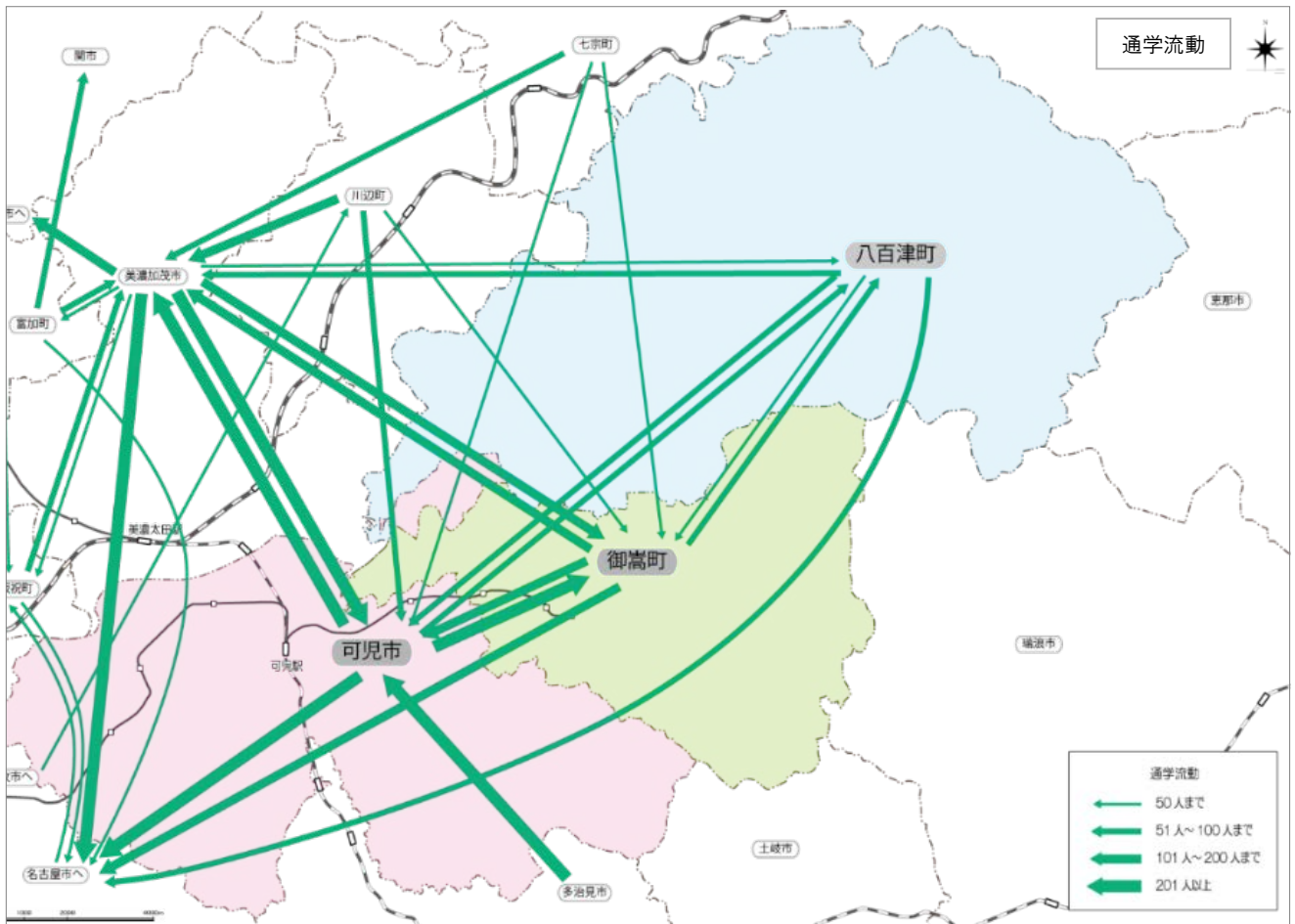
資料：乗降調査

図 3-8 路線別利用者数の推移（再掲）



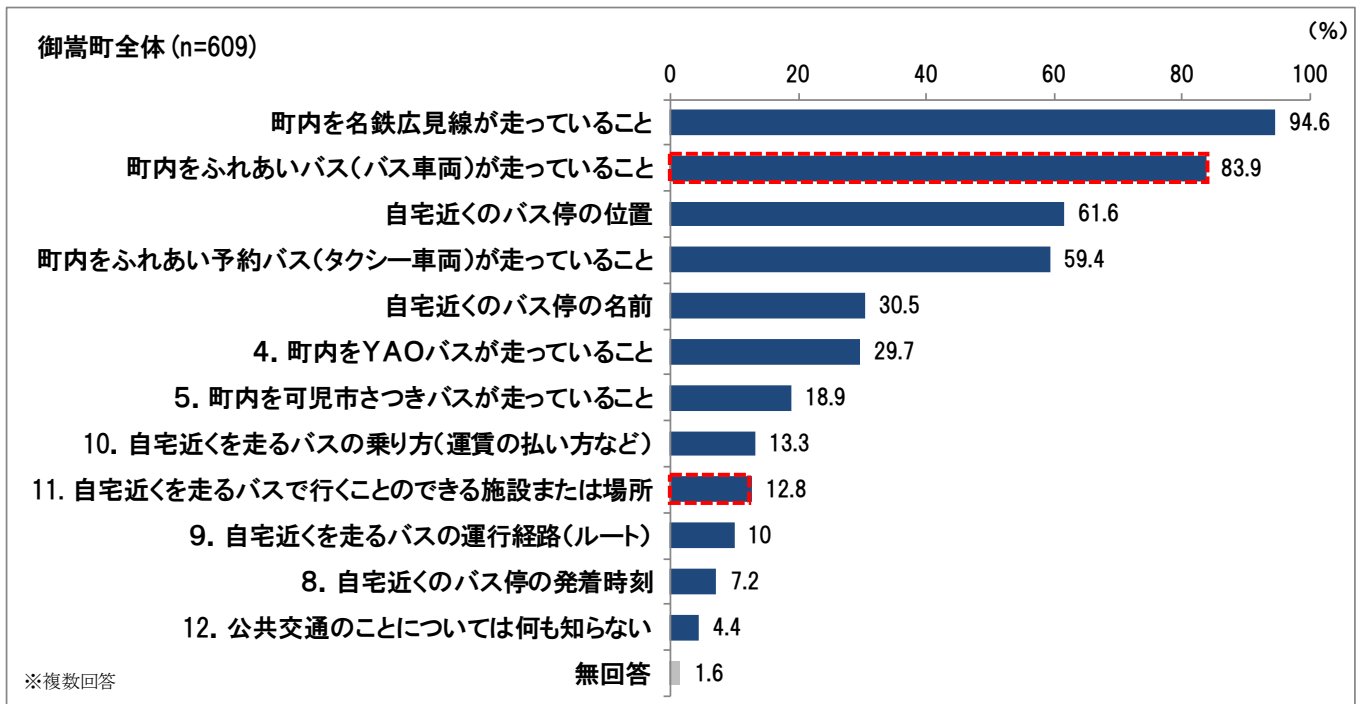
資料：御嵩町

図 3-9 通勤・通学流動（再掲）



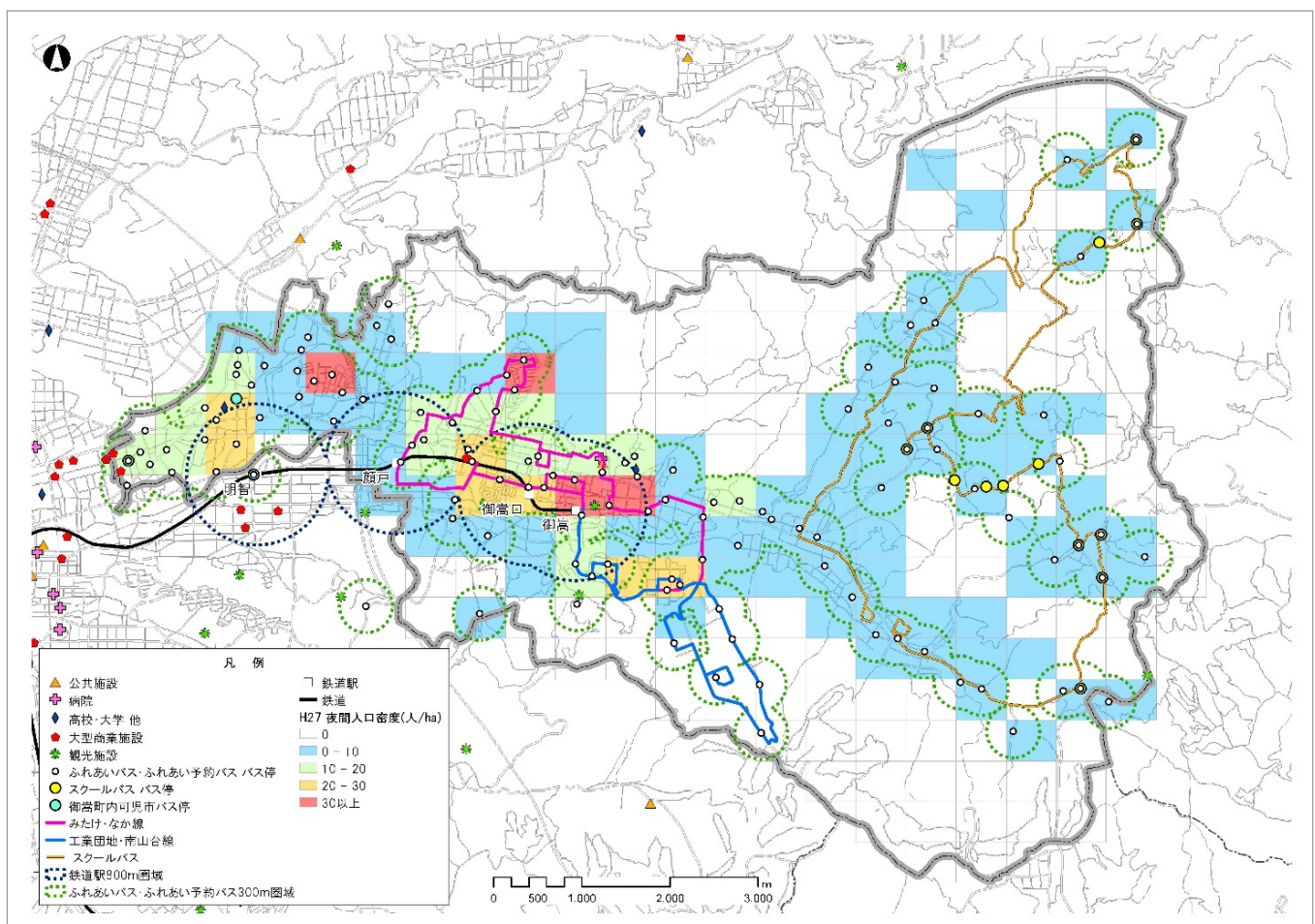
資料：H27 国勢調査

図 3-10 御嵩町の公共交通について知っていること（再掲）



資料：住民アンケート調査

図3-11 ふれあいバス・ふれあい予約バスの人口カバー率（再掲）



資料：国勢調査、国土数値情報、全国大型小売店舗総覧

図 3-12 免許返納しようと思う（返納した）年齢（再掲）

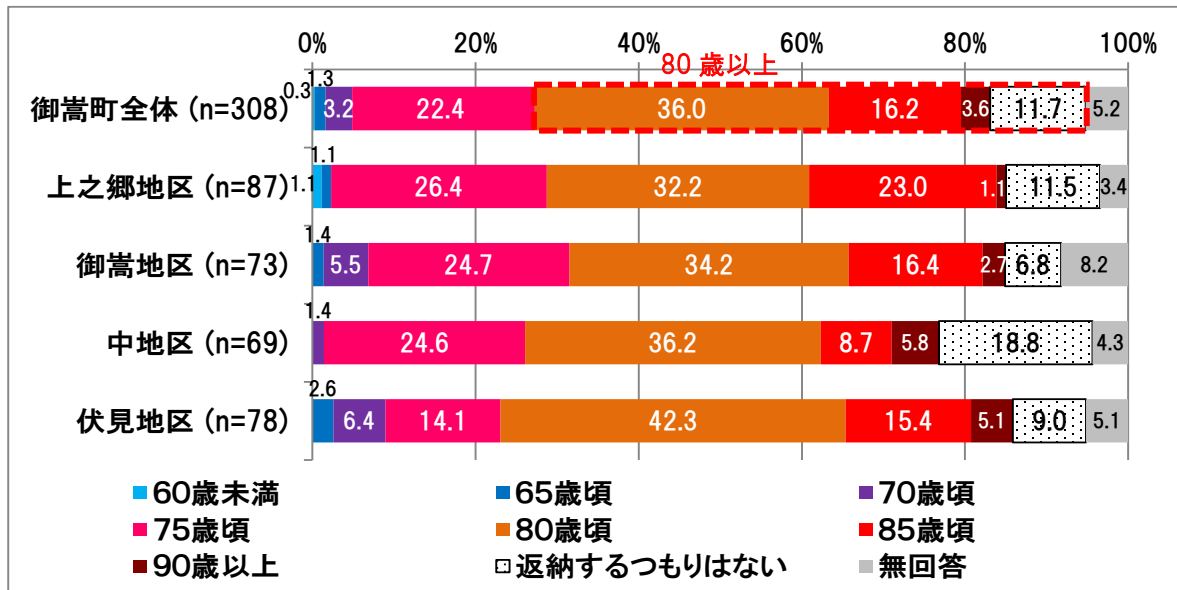


図 3-13 公共交通の利用頻度（再掲）

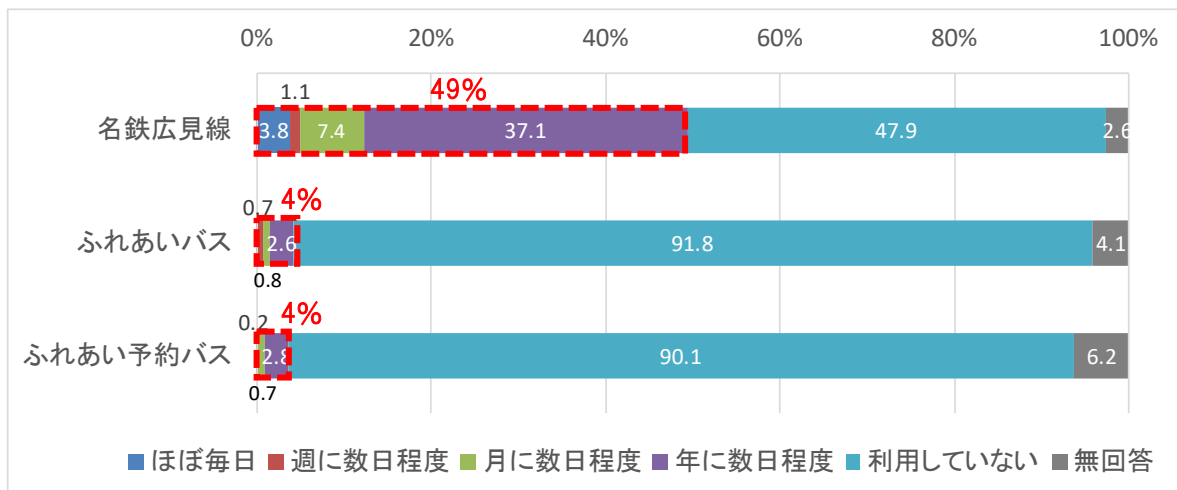


図 3-14 公共交通を確保・維持するために取り組めること

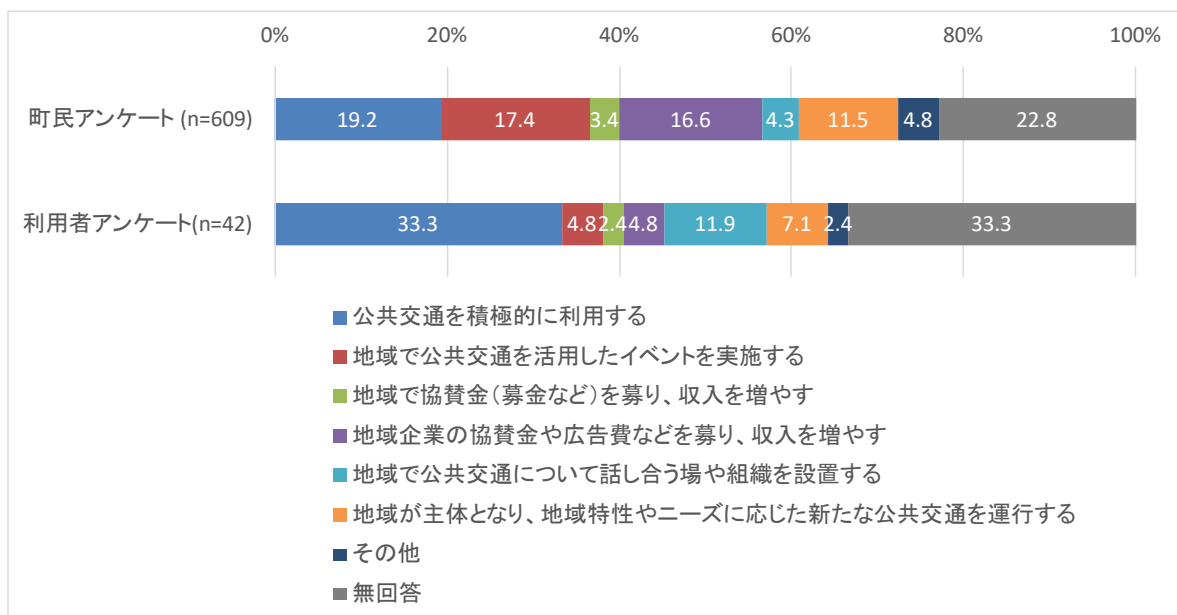
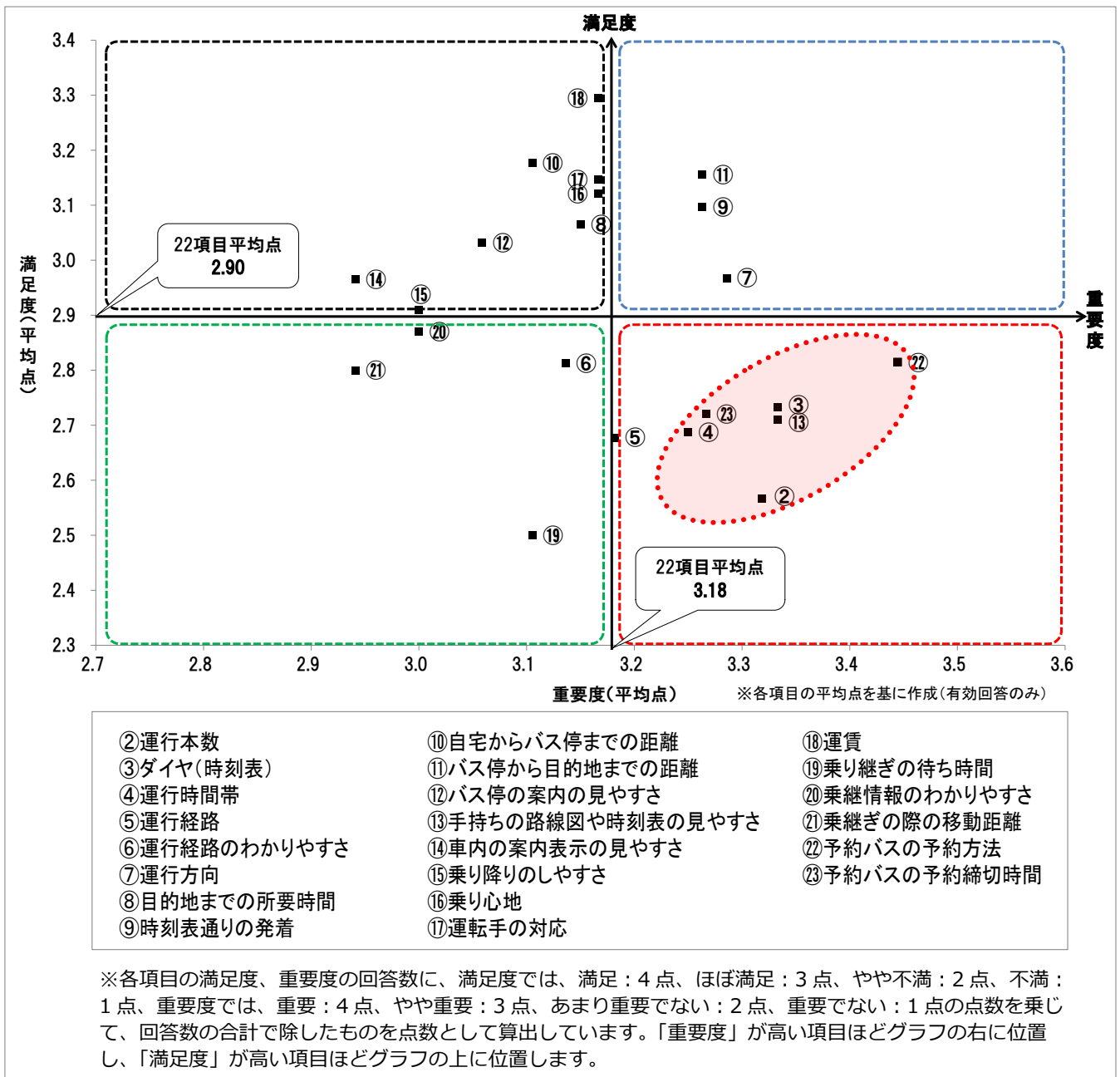


図3-15 「現状の満足度」と「これからの重要度」の相関図



資料：利用者アンケート調査

(2)個別課題から導かれる集約課題

課題① 路線で異なる利用目的や非利用者が利用可能となる移動ニーズ等への対応

- 町民の移動は自由目的（買物、通院、飲食・娯楽など）の割合が高く、買物は町内、通院、飲食・娯楽などは可児市への移動が主体を占めています。当面は、高齢者の人口、割合ともに増加傾向にあることから、更なる増加が予測される自由目的の移動需要に対応する必要があります。（図 3-1,2）
- 住民アンケートより、ふれあいバス・予約バスの非利用者の利用が可能となる条件として、「利用したい時間帯に運行している」、「予約が簡単」などの項目が挙げられることから、これら非利用者の利用が可能となるバスサービスの改善を図る必要があります。（図 3-3）
- 乗降調査より、各バス路線の利用目的は、みたけ・なか線、ふしみ線、かみのごう線は「通院・お見舞い」、「買物」約 21～34%、みたけ・なか線では「観光・レクリエーション」約 31%、工業団地・南山台線は「通勤」約 77%となっていることから、路線で異なる利用特性に即したバスサービスを展開する必要があります。（図 3-4）

課題② 将来都市構造の構築を見据えた公共交通の役割の明確化

- 御嵩町は拠点連携型の都市構造を目指しており、歴史文化交流拠点と位置付けられる御嵩駅周辺を中心としつつ、各地域との連携はバスやタクシーなど公共交通相互がネットワークすることで、将来都市構造の構築を支える役割が期待されています。（図 3-5）
- 乗降調査より、みたけ・なか線の利用者の約 90%が御嵩町内を最終目的地とする一方、工業団地・南山台線は、名鉄広見線の乗り継ぎが約 55%を占めることから、町内移動の充実とともに名鉄広見線へのアクセス機能に対応したバスサービスの充実を図る必要があります。（図 3-6,7）

課題③ 御嵩町及び周辺都市を含めた交通圏の移動需要に対応した公共交通手段の確保

- 国勢調査や各種アンケートより、御嵩町は通勤・通学や観光目的で隣接する可児市・八百津町との結びつきが強い傾向にあります。しかし、これら隣接する可児市、八百津町への移動は、東西方向の名鉄広見線が一定頻度で運行するものの、南北方向は主に通学需要に対応した YAO バスが運行する他、各市町に分布する商業・医療・観光等施設への移動需要に対応した広域的な公共交通は存在しないことから、新たな広域公共交通路線について、関係者間で協議・調整を図る必要があります。
- 住民・利用者アンケートより、公共交通を確保・維持するためには「公共交通を積極的に利用する」、「公共交通を活用したイベントの実施」、「公共交通について話し合う場や組織の設置」などの声が挙げられることから、交通事業者、利用者・地域住民及び行政など、地域の公共交通に携わる関係者が連携・協働した取り組みを推進する必要があります。（図 3-8,9,14）
- 御嵩町に関連する広域的な移動需要に対応するため、可児市や八百津町へ連絡する名鉄広見線や新たな広域公共交通サービスの確保が重要となります。
- 御嵩町及び周辺地域のおすすめスポットとして、可児市の花フェスタ記念公園や八百津町の人道の丘公園（杉原千畝記念館）、御嵩町の鬼岩公園などが上位に挙げられることから、これら観光・レクリエーション施設と公共交通が連携した地域の魅力を創出するバスサービスを展開する必要があります。

課題④ わかりやすい情報・案内の提供や利用しやすいバス交通へのサービス改善

- 公共交通による町人口のカバー率は約 89%、町内の主要集客施設は概ねカバーされることを背景とし、住民アンケートではふれあいバスの認知度は約 84%と高い一方、バスで行くことのできる施設の認知度は約 13%に留まっていることから、各種バスサービスを知っていただき、利用していただくためにも、わかりやすい情報・案内を提供する必要があります。（図 3-10,11,12,13）
- 利用者アンケートより、現状の満足度が低く、今後の重要度が高いバスサービス項目は、「運行本数」「ダイヤ」「運行時間帯」「手持ちの路線図や時刻表の見やすさ」「予約バスの予約方法」「予約バスの予約締め切り時間」などが挙げられることから、利用しやすいバス交通とするためにサービス改善に取り組む必要があります。（図 3-15）

4 地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針

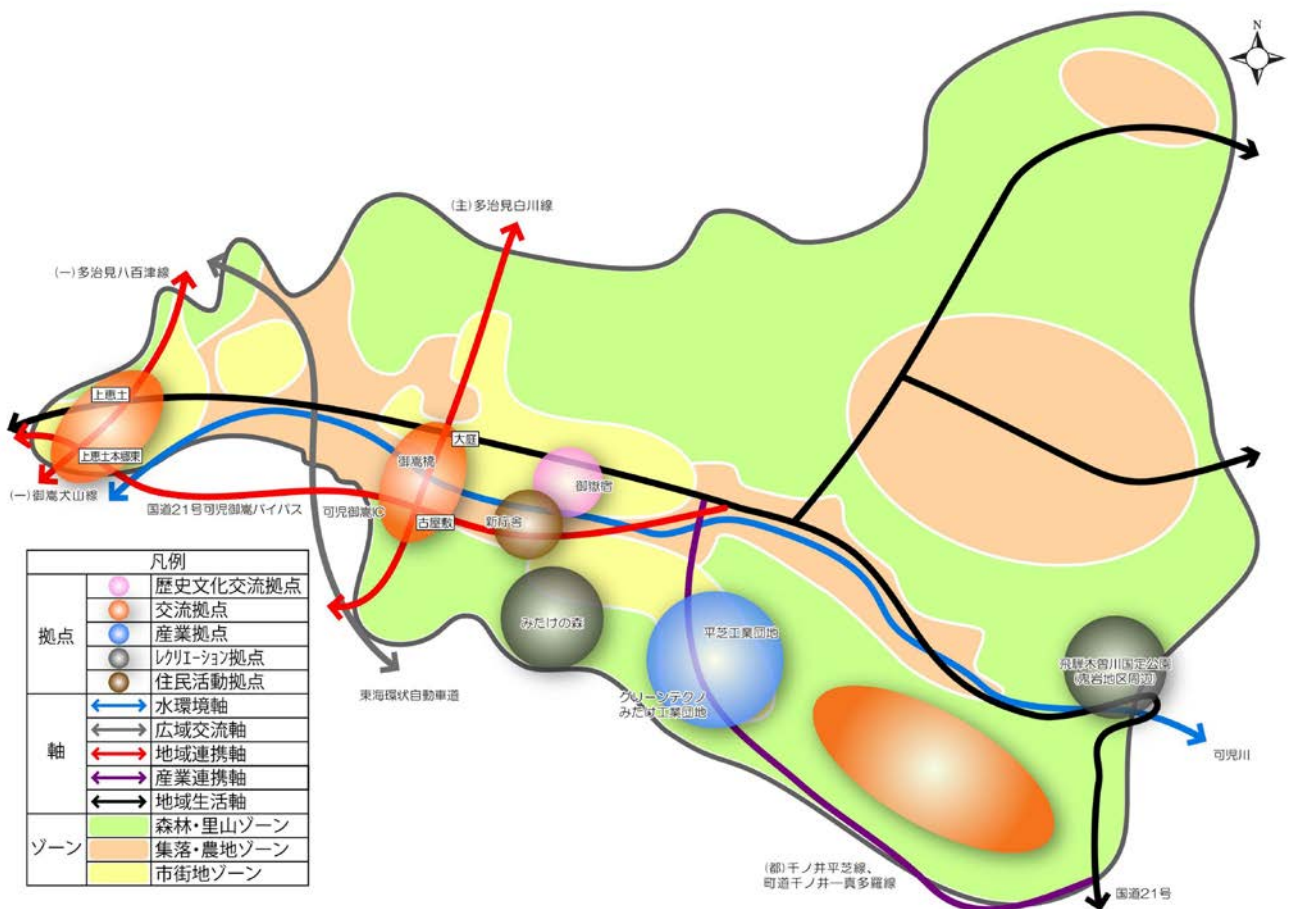
(1) 御嵩町の交通将来像

御嵩町第五次総合計画では、「つながる・あふれる・輝くまち」をまちの将来像として、地域の暮らしの安全・安心に結びつく人と人との絆、地域とのつながりを確かなまちの財産として育てていくとともに、緑豊かな自然環境をはじめとする地域の資源、まちの個性に磨きをかけ、人、もの、情報の交流を育むことで、一人ひとりが活躍し、みんなが生きがいと希望にみちた魅力ある町を目指しています。公共交通については、近隣市町村や各種団体などとの連携を図りながら、名鉄広見線の利用拡大に向けた取組を推進するとともに、バスと自動車、自転車との連携強化が方針とされています。

また、御嵩町都市計画マスタープランでは拠点連携型の都市構造を目指しており、歴史文化交流拠点と位置付けられる御嵩駅周辺を中心としつつ、交流拠点、産業拠点等、各地域との連携はバスやタクシーなど公共交通相互がネットワークすることで、将来都市構造の構築を支える役割が期待されています。

これらより、御嵩町の交通将来像は、「**みたけファンのくらしと交流を支える交通のまち**」とします。御嵩町における地域公共交通の活性化及び再生の推進にあたっては、地域公共交通に関わる全ての関係者と連携・協働した取組を推進することで、御嵩町の公共交通のめざす姿を実現します。

図 4-1 将来都市構造図



出典：御嵩町都市計画マスタープラン

(2)地域公共交通の基本方針

御嵩町における地域公共交通の課題及び御嵩町が目指す将来交通像「みたけファンのくらしと交流を支える交通のまち」を受け、以下に公共交通の基本方針を示します。

交通将来像

「みたけファンのくらしと交流を支える交通のまち」



> 課題①②③ 基本方針Ⅰ

御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

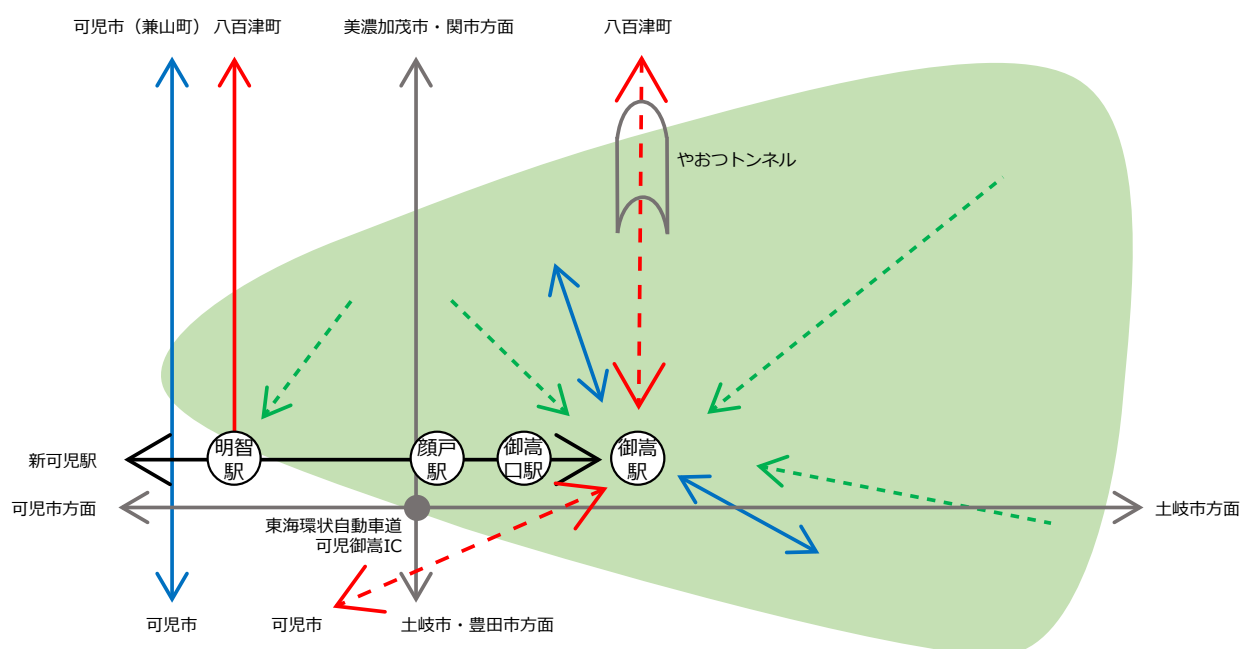
> 課題①③ 基本方針Ⅱ

広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入に向けた取り組みの推進

> 課題①②④ 基本方針Ⅲ

わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

図 4-2 御嵩町における交通体系のイメージ



> 課題①②③ 基本方針Ⅰ

御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

- 御嵩町の将来都市構造の核として機能する御嵩駅周辺を中心として、交流拠点や産業拠点、レクリエーション拠点等へのスムーズな移動環境を創出します。
- 都市内移動需要に対応したふれあいバスを地域交流路線、ふれあい予約バスを生活交流路線として位置づけ、町民の日常生活や来訪者の観光移動需要に対応します。
- 交通結節点においては、名鉄広見線、ふれあいバス、タクシー等、公共交通相互の接続を確保し、利便性の高い公共交通ネットワークを形成します。

> 課題①③ 基本方針Ⅱ

広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入に向けた取り組みの推進

- 都市間移動需要に対応した名鉄広見線を公共交通軸として位置づけ、サービス水準を維持します。
- 御嵩町・可児市・八百津町が連携・協働し、名鉄広見線を東西方向の公共交通軸としつつ、南北方向の新たな広域バス路線の導入に係る取り組みを進めていきます。
- 御嵩町、可児市、八百津町等、周辺市町を含めた地域の魅力ある観光・レクリエーション資源と公共交通が連携し、インバウンド需要への対応を図ります。

> 課題①②④ 基本方針Ⅲ

わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

- ふれあいバス、ふれあい予約バスの各路線で異なる利用目的、今後の町人口の動向、バスの非利用者が利用可能となる条件など、変化・多様化する移動ニーズに対応した運行サービスを提供します。
- 普段公共交通を利用していない町民や、インバウンドを含む、初めて御嵩を訪れた来訪者も不安なく利用できる、わかりやすい情報（ルート・バス停・運行状況等）を提供します。
- 地域公共交通を確保・維持し、日常的な利用頻度を高めるため、地域住民や団体も含めた全ての関係者が連携・協働した取り組みを実施します。

5 計画の区域と期間

(1) 計画の区域

御嵩町地域公共交通網形成計画は、町内を運行する公共交通全体の確保・維持・改善を図るとともに、路線再編を一体的に取り扱うことから、計画の区域は御嵩町全域とします。

なお、御嵩町・可児市・八百津町の交通圏における連携を強化・充実するため、隣接市町とは個別に協議・調整を図ります。

(2) 計画の期間

御嵩町地域公共交通網形成計画は、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の基本方針で示される5年程度を原則としつつ、上位・関連計画である第五次御嵩町総合計画および御嵩町都市計画マスタープランの将来都市像や将来都市構造に示すまちづくりの実現を支援するため、これら上位・関連計画と整合した目標年度とする必要があるため、本計画の期間は2020年度から2025年度までの6か年とします。

なお、計画期間内であっても、公共交通の利用に係る安全性の確保や利便性の向上について、個別の見直し事項等が発生した場合には、適切な時期に見直しを実施するものとします。

図5-1 地域公共交通網形成計画と上位・関連計画における計画期間の関係（予定）

計画 年度	総合計画	都市計画 マスタープラン	地域公共交通 網形成計画
2016	第五次計画	第一次	
2017		第二次計画	
2018			
2019			
2020			本計画
2021			
2022			
2023			
2024			
2025	第六次		
2026		第三次	第二次
2027			
2028			
2029			
2030			
2031			
2032			

* 第六次総合計画、第二次都市計画マスタープランおよび第二次地域公共交通網形成計画の計画年度は予定

6 計画の目標

御嵩町が目指す交通将来像の達成度を検証するため、地域公共交通網形成計画で定めた3つの基本方針に基づき、目標および目標値を設定します。

交通将来像

「みたけファンのくらしと交流を支える交通のまち」



> 課題①②③ 基本方針Ⅰ

御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

<目標> 町内の公共交通の利便性・生産性向上

<指標> 町内の公共交通の利用者数、公共交通全体の満足度、利用者一人当たりの町支出額

> 課題①③ 基本方針Ⅱ

広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入に向けた取り組みの推進

<目標> 周辺市町など広域的な移動の増加

<指標> 名鉄広見線の利用者数、主要観光施設の観光入込客数

> 課題①②④ 基本方針Ⅲ

わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

<目標> 公共交通の認知度・満足度の向上

<指標> 公共交通の認知度、利用しやすさの満足度、関係者が連携・協働した取り組みの件数

表 6-1 目標値の設定

基本目標	目標基準値（2025 年度）		
【基本目標Ⅰ】	【目標】公共交通全体の利用者数の増加	目標値	現況値
	公共交通全体の利用者数 ^{※1}	3,030 人/日	2,973 人/日
	(交通事業者、御嵩町提供データ)		
	【目標】公共交通の不満割合の減少	目標値	現況値
	公共交通全体の不満割合 ^{※2}	現況値以下	22.8%
	(町民アンケート)		
	【目標】利用者一人当たりの町支出額の減少	目標値	現況値
	ふれあいバスの利用者一人当たりの町支出額	現況値以下	1,080 円/人
	ふれあい予約バスの利用者一人当たりの町支出額	現況値以下	880 円/人
	(御嵩町提供データ)		
【基本目標Ⅱ】	^{※1} ：名鉄広見線・ふれあいバス・ふれあい予約バス・YAO バス・可児市さつきバス・一般タクシーの年間利用者合計 ^{※2} ：町民アンケートの公共交通全体の満足度のうち、「不満」と「やや不満」の回答割合の合計		
	【目標】名鉄広見線の利用者数の増加	目標値	現況値
	名鉄広見線の年間利用者数 ^{※3}	896,100 人	896,043 人
	(交通事業者提供データ)		
	【目標】御嵩町・可児市・八百津町の主要観光施設の観光入込客数の増加	目標値	現況値
【基本目標Ⅲ】	中山道みたけ館・花フェスタ記念公園・人道の丘公園の年間観光入込客数	545,900 人	463,694 人
	(岐阜県観光入込客数統計)		
	^{※3} ：名鉄広見線（新可児駅～御嶽駅間）の年間乗車客数の合計		
	【目標】公共交通の認知度の向上	目標値	現況値
	自宅近くを走るバスの運行経路の認知度 ^{※4}	現況以上	10.0%
	自宅近くを走るバスで行くことのできる施設の認知度 ^{※4}	現況以上	12.8%
	自宅近くを走るバスの乗り方の認知度 ^{※4}	現況以上	13.3%
	(町民アンケート)		
	【目標】公共交通の利用しやすさの不満割合の減少	目標値	現況値
	ダイヤ（時刻表）の不満割合 ^{※5}	現況以下	30.0%
【基本目標Ⅲ】	運行経路の不満割合 ^{※5}	現況以下	38.7%
	手持ちの路線図や時刻表の見やすさの不満割合 ^{※5}	現況以下	41.9%
	(利用者アンケート)		
	【目標】関係者が連携・協働した取り組みの増加	目標値	現況値
	関係者が連携・協働した取り組みの件数	現況以上	年間 9 件
	(御嵩町提供データ)		
	^{※4} ：町民アンケートの項目別認知度 ^{※5} ：利用者アンケートの項目別満足度		

7 目標を達成するために行う事業と実施主体

(1) 公共交通の種類とサービス水準の設定

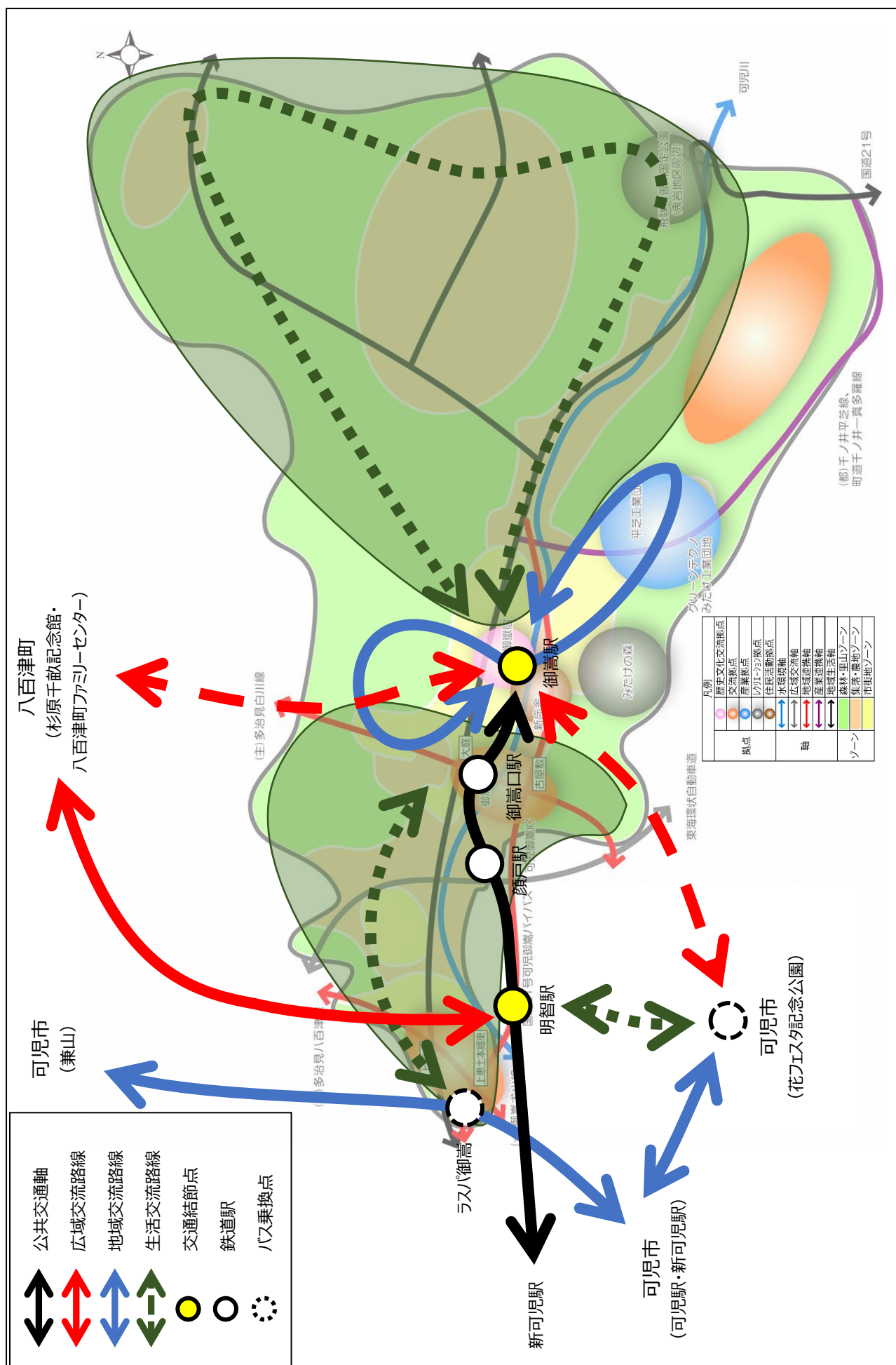
前章までに、御嵩町の公共交通の現状や、各種ニーズ調査の結果から整理した地域公共交通の課題を踏まえた交通将来像を設定し、その交通将来像を実現するため、地域公共交通の基本方針並びに計画の目標を定めました。

本章では、計画の目標を達成するために行う事業と、それぞれの事業の実施主体を整理します。また、ここでは、御嵩町の公共交通ネットワークを構成する各路線の機能を明確化し、サービス確保の考え方について整理します。

表 7-1 御嵩町の地域公共交通の路線機能に基づくサービス確保の考え方

種類	路線機能	サービス確保の考え方	運営	料金体系	該当する路線・地区
公共交通軸	御嵩町内と可児市方面を結ぶ、都市間移動ニーズに対応した路線	・移動ニーズに対応した現行サービス水準の確保 ・交通事業者が沿線市町と連携して運行	・交通事業者	対距離制運賃	・名鉄広見線
広域交流路線	八百津高校への通学を中心としながら、地域の移動ニーズに対応した路線	・概ね 30～60 分に 1 本の運行 ・運行時間帯は 6～21 時台 ・通学や沿線住民の利用者ニーズに応じたサービスを確保 ・交通事業者が沿線市町及び学校、関連団体と連携して運行	・八百津町 ・御嵩町 ・可児市	対距離制運賃	・YAO バス
	御嵩町を中心とした、可児市や八百津町の観光資源を結ぶ、まちづくりやみたくファン観光を支援・誘導する路線	・運行本数や時間帯については、沿線の観光資源へアクセスすることを踏まえて設定 ・交通事業者と沿線市町及び観光施設が連携して運行	・交通事業者 ・御嵩町 ・可児市 ・八百津町	対距離制運賃	・新設路線
地域交流路線	公共交通軸に接続し、広域支援路線を補完する形として、御嵩駅周辺を中心とした町民の移動ニーズや、町内の通勤・通学に対応した路線 昼間時間帯では、生活支援路線と連携して町民の足となり、御嵩町での生活を楽しく送ることができるように配慮	・概ね 60 分に 1 本の運行 ・運行時間帯は 6～20 時台 ・町内の人口集積地と主要な施設を結ぶとともに、通勤・通学利用者のニーズに応じたサービスを確保 ・御嵩町が町民や交通事業者と連携し運行内容を協議・調整	・御嵩町 ・町民 ・可児市 ・交通事業者	均一料金	・ふれあいバス ・さつきバス ・東鉄バス
生活交流路線	各地域と医療・商業・公共施設等をきめ細かく連絡し、地域支援路線がサービスされない地域を含めた、日常生活を支援する路線	・概ね 60 分に 1 本の運行 ・運行時間帯は 7～17 時台 ・町民の生活移動ニーズに対応するとともに、上之郷地区では、通学に対応したサービスを確保 ・御嵩町が町民や交通事業者と連携し運行内容を協議・調整	・御嵩町 ・町民 ・交通事業者	均一料金	・ふれあい予約バス
個別輸送	上記交通に対して、空間的・時間的な補完関係を持った、個別の移動ニーズに対応した交通	・個別の移動ニーズに対して、柔軟に対応できるサービス水準を確保	・交通事業者	対距離時間制運賃	・タクシー
その他	既存公共交通サービスの利用が困難な特定地域の高齢者や、障がい者等の特定利用者の移送サービス	・特定地区の高齢者や障がい者、要介護者の通院などの移動需要と地域の特性に応じたサービスを地域住民や NPO 等が確保	・町民 ・NPO 等	実費相当額・対距離制運賃等	・ボランティア輸送

図 7-1 公共交通ネットワークの再編イメージ



(2)公共交通ネットワーク形成の方針

御嵩町の地域公共交通の基本方針に基づき、公共交通ネットワーク形成の方針について以下の通り整理します。

基本方針Ⅰ

御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

基本方針Ⅱ

名鉄広見線を軸に広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入検討

基本方針Ⅲ

わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

【公共交通ネットワーク形成の方針】

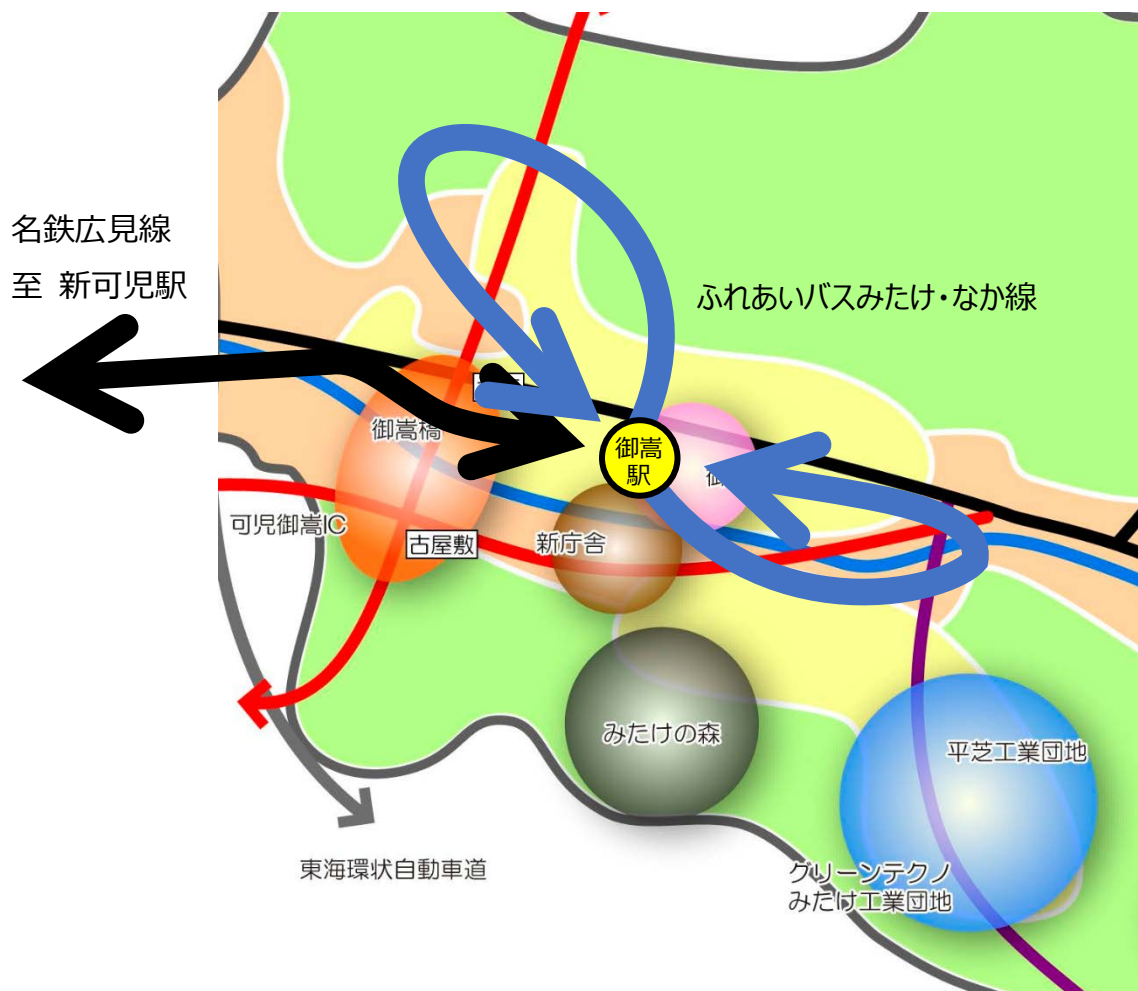
- ✓ 名鉄広見線を公共交通ネットワークの中心となる公共交通軸として位置づけます。
- ✓ 広域交流路線に位置付けた YAO バスは、明智駅への鉄道アクセスを確保するとともに、平日は高校生の通学需要への対応、休日はまちづくりや観光振興に寄与する路線として位置づけ、周辺市町との協議の場を設けます。
- ✓ 地域交流路線に位置付けたふれあいバスは、公共交通軸に接続し、広域交流路線を補完する形で、町内の通勤・通学需要に対応したサービスを確保するとともに、御嵩駅を中心とした町民の生活移動需要に対応したサービスを確保します。
- ✓ ふれあいバスのうちみたけ・なか線について、御嵩駅に止まる回数を増加させ、御嵩駅を中心とした路線とします。
- ✓ 生活交流路線に位置付けたふれあい予約バスは、バス車両として対応する需要が見込めない地域において、各地域の生活圏に合わせたきめ細やかなサービスを確保します。
- ✓ 交通結節点においては、待合環境や乗継環境の整備・充実を図ります。
交通結節点のうち御嵩駅では、総合情報案内板を設置するなど、わかりやすい交通情報を提供します。

●ネットワーク形成に向けた路線再編などの具体的な取り組み

実施事業	実施内容	実施年度	実施主体
公共交通ネットワークの再編	地域交流路線の再編	検討・協議 2020 年度 再編の実施 2021 年度（予定）～	御嵩町・交通事業者

- ふれあいバスみたけ・なか線について、御嵩駅へのアクセス利便性を向上させるため、路線の再編を行います。
- 現在、御嵩駅を発着点として右回り・左回りを1時間おきに運行している路線を、8の字の路線とすることで、御嵩駅へアクセスする回数を増加させます。

図 7-2 ふれあいバスみたけ・なか線の再編



(3)交通結節点の整備方針

前項の公共交通ネットワーク形成の方針で位置づけた交通結節点について、御嵩町、交通事業者及び施設管理者等が連携し、公共交通相互及びその他の交通モードとの円滑な乗り継ぎが可能となる施策・事業を展開することで、利用しやすい公共交通環境を創出します。

表 7-2 対象となる交通結節点と実施する取り組み

対象となる交通結節点	町内：御嵩駅、顔戸駅、御嵩口駅 町外：明智駅
実施する取り組み	✓ 待合環境の整備（ベンチ・屋根等）の充実 ✓ 乗り継ぎ案内や観光情報の提供 ✓ 総合情報案内版（デジタルサイネージ）の設置 ✓ 乗り継ぎしやすいダイヤの設定 ✓ パークアンドライド駐車場や駐輪場の確保

(4)公共交通の利用促進施策

御嵩町が目指す交通将来像の実現に向け、町民や来街者といった“みたけファン”が、地域公共交通に親しみを持ち、利用したくなる環境づくりが重要です。そのためには、みたけファンをはじめ、地域企業や団体、交通事業者など、地域公共交通に関わる全ての関係者が連携・協働して、各種利用促進施策を実施する必要があります。

ここでは、地域公共交通の利用促進に関わる取り組みについて、その内容やスケジュール、実施主体について整理します。

表 7-3 公共交通の利用促進施策

基本方針との対応	施策の分類	実施主体	施策実施の方向性
基本方針Ⅱ	①利用者にとってわかりやすい交通情報の提供	御嵩町・町民・交通事業者	・公共交通に関する情報をわかりやすく提供することで、普段公共交通に馴染みのない利用者でも利用しやすい環境を創出
	②多様な方法での公共交通情報の周知・広報	御嵩町・交通事業者	
	③利用しやすい運賃の支払い方法や企画切符等の導入	御嵩町・地域企業・各種団体・交通事業者	・現在の利用者にとって、利便性の向上に資するとともに、新規利用者や町外利用者にとって、利用したくなる企画により、公共交通の新たな利用者を誘引
	④公共交通の利用機会の創出・増加につながる施策の実施	御嵩町・交通事業者	
	⑤利用者にも環境にもやさしい車両の導入	御嵩町・交通事業者	
基本方針Ⅲ	⑥みたけファンと一体となった利用促進施策の実施	御嵩町・町民	・地域公共交通に関わる全ての関係者が連携・協働し、公共交通を支える取り組みを行うことで、継続的に地域公共交通を運行する意識を醸成
	⑦地域企業や各種団体と一体となった利用促進施策の実施	御嵩町・地域企業・各種団体	

表 7-4 利用促進施策として行う具体的な取り組み

実施事業	実施内容	実施年度	実施主体
①利用者にとってわかりやすい交通情報の提供	時刻表・路線図の見直し・作成	新規 2020～2025 年度	御嵩町・町民・ 交通事業者
	公共交通情報の多言語化	新規 2021～2025 年度	御嵩町
	バスロケーションシステムの導入 (バス接近情報の提供)	新規 2022～2025 年度	御嵩町・交通事業者
	わかりやすいバス停名への変更	新規 2020～2025 年度	御嵩町・町民
	バス運行情報の GTFS 化	新規 2021～2025 年度	御嵩町・交通事業者
②多様な方法での公共交通情報の周知・広報	公共交通を利用したイベント等の 広報（町 Web サイト・広報など）	継続 2020～2025 年度	御嵩町・イベント主催者
	各種イベントポスター等への 公共交通情報の掲載	継続 2020～2025 年度	イベント主催者・御嵩町
	ケーブルテレビやコミュニティ FM での 公共交通情報の発信	新規 2021～2025 年度	御嵩町・放送事業者
	公共交通の利用状況の発信	継続 2020～2025 年度	御嵩町
③利用しやすい運賃の 支払い方法	ふれあいバス・ふれあい予約バスにお ける定期券・回数券の発行	継続 2020～2025 年度	御嵩町・交通事業者
	障がい者の運賃割引制度 (ふれあい予約バス) の継続運用	継続 2020～2025 年度	御嵩町・交通事業者
④公共交通の利用機 会の創出・増加につ ながる施策の実施	戦国武将のイラスト入り乗車証明書 の発行	新規 2020～2025 年度	御嵩町・可児市・ 八百津町・交通事業者
	次回乗車のための予約カードの発行	新規 2020～2025 年度	御嵩町・交通事業者
⑤利用者にも環境にも やさしい車両の導入	ノンステップバスの導入	継続 2020～2025 年度	御嵩町・交通事業者
⑥みたけファンと一体と なった利用促進施策 の実施	モデルダイヤ作成によるお出かけ シミュレーション	継続 2020～2025 年度	御嵩町・町民
	車内デコレーションやイベント時の 装飾	新規 2020～2025 年度	町民・御嵩町・ 交通事業者
	サロン運営者や民生委員と協力した 乗り方教室の実施	新規 2021～2025 年度	町民・御嵩町・ 交通事業者
	地域住民によるバス停環境の整備	新規 2020～2025 年度	町民・御嵩町

実施事業	実施内容	実施年度	実施主体
⑦地域企業や各種団体と一体となった利用促進施策の実施	コンビニを活用したミーティングポイントの設置	新規 2020～2025 年度	御嵩町・商業施設・ 交通事業者
	バス車内での広告の掲載	継続 2020～2025 年度	御嵩町・地域企業・ 交通事業者
	バス停のネーミングライツ制度や 広告の掲載	新規 2020～2025 年度	御嵩町・地域企業・ 交通事業者
	ノーマイカー出勤の実施	継続 2020～2025 年度	御嵩町・地域企業

●公共交通の利用促進施策として行う具体的な取り組み

④公共交通の利用機会の創出・増加につながる施策の実施

【取り組み：戦国武将のイラスト入り乗車証明書の発行】

- 御嵩町・可児市・八百津町が連携して、それぞれが運行するバス（御嵩町：ふれあいバス、可児市：さつきバス、八百津町：YAOバス）の「乗車証明書」を配布します。
- 3市町それぞれのゆかりの戦国武将（御嵩町：可児才蔵、可児市：明智光秀、八百津町：森乱丸）のイラストが描かれた乗車証明書とします。

図 7-3 イラスト入り乗車証明書（案）



⑦地域企業や各種団体と一体となった利用促進施策の実施

【取り組み：コンビニを活用したミーティングポイントの設置】

- 町内のコンビニエンスストアとふれあい予約バスのミーティングポイントを一体化させ、買い物の利便性を向上させるとともに、バスを待つ時間を快適に過ごせるようにします。
- 町内の全てのコンビニエンスストアには、イートインスペースが設置されており、コンビニエンスストアのオーナーと連携することで、快適なバスの待合環境を創出します。

図 7-4 ミーティングポイント設置予定コンビニのイートインスペース



(5)事業実施のスケジュールと実施主体

御嵩町地域公共交通網形成計画の目標を達成するために実施する各種施策・事業について、その実施スケジュールと実施主体を下表において整理します。

実施事業		実施内容
1. 公共交通ネットワークの再編		公共交通軸（鉄道）の運行
		広域交流路線（YAO/バス）の運行
		広域交流路線（新設路線）の導入検討
		地域交流路線（ふれあいバス）の再編・運行
		生活交流路線（ふれあい予約バス）の運行
		個別輸送（タクシー）の運行
		周辺市町と連携した公共交通ネットワークの確保・維持
2. 交通結節点の整備		御嵩駅における総合案内板（デジタルサイネージ）の設置
		待合環境（上屋・ベンチ等）の充実
		パークアンドライド駐車場や駐輪場の確保
		交通結節点における乗り継ぎを考慮したバスのダイヤ設定
3. 公共交通の利用促進施策	① 利用者にとってわかりやすい交通情報の提供	時刻表・路線図の見直し・作成
		公共交通情報の多言語化
		バスロケーションシステムの導入（バス接近情報の提供）
		わかりやすいバス停名への変更
		バス運行情報のGTFS化
	② 多様な方法での公共交通情報の周知・広報	公共交通を利用したイベント等の広報（町Webサイト・広報など）
		各種イベントポスター等への公共交通情報の掲載
		ケーブルテレビやコミュニティFMでの公共交通情報の発信
		公共交通の利用状況の発信
	③ 利用しやすい運賃の支払い方法や企画切符の導入	ふれあいバス・ふれあい予約バスにおける定期券・回数券の発行
		障がい者の運賃割引制度（ふれあい予約バス）の継続運用
	④ 公共交通の利用機会の創出・増加につながる施策の実施	戦国武将のイラスト入り乗車証明書の発行
		次回乗車のための予約カードの発行
	⑤ 利用者にも環境にもやさしい車両の導入	ノンステップバスの導入
	⑥ みたけファンと一体となった利用促進施策の実施	モデルダイヤ作成によるお出かけシミュレーション
		車内デコレーションやイベント時の装飾
		サロン運営者や民生委員と協力した乗り方教室の実施
		地域住民によるバス停環境の整備
	⑦ 地域企業や各種団体と一体となった利用促進施策の実施	コンビニを活用したミーティングポイントの設置
		バス車内での広告の掲載
		バス停のネーミングライツ制度や広告の掲載
		ノーマイカー出勤の実施
		名鉄広見線活性化施策（御嵩町関連分継続事業）
4. 評価及び推進体制		御嵩町ふれあいバス等公共交通研究会の開催
		地域公共交通会議の開催
		（各種施策・事業の実施、計画目標の評価、対策案の検討など）

□事業準備(検討・協議を含む) ■事業実施(継続を含む)

実施予定年度						実施主体
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
						交通事業者
						交通事業者・八百津町・御嵩町・可児市
						御嵩町・可児市・八百津町・岐阜県・交通事業者
						御嵩町・町民・可児市・交通事業者
						御嵩町・交通事業者
						交通事業者
						御嵩町・可児市・八百津町・交通事業者
						御嵩町・交通事業者・観光協会
						御嵩町・施設管理者
						御嵩町・施設管理者
						御嵩町・交通事業者
						御嵩町・町民・交通事業者
						御嵩町
						御嵩町・交通事業者
						御嵩町・町民
						御嵩町・交通事業者
						御嵩町・イベント主催者
						イベント主催者・御嵩町
						御嵩町・放送事業者
						御嵩町
						御嵩町・交通事業者
						御嵩町・交通事業者
						御嵩町・可児市・八百津町・交通事業者
						御嵩町・交通事業者
						御嵩町・交通事業者
						御嵩町・町民
						町民・御嵩町・交通事業者
						町民・御嵩町・交通事業者
						町民・御嵩町
						御嵩町・商業施設・交通事業者
						御嵩町・地域企業・交通事業者
						御嵩町・地域企業・交通事業者
						御嵩町・地域企業・町民
						名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）活性化協議会
						御嵩町・町民
						御嵩町地域公共交通会議

8 計画の達成状況の評価に関する事項

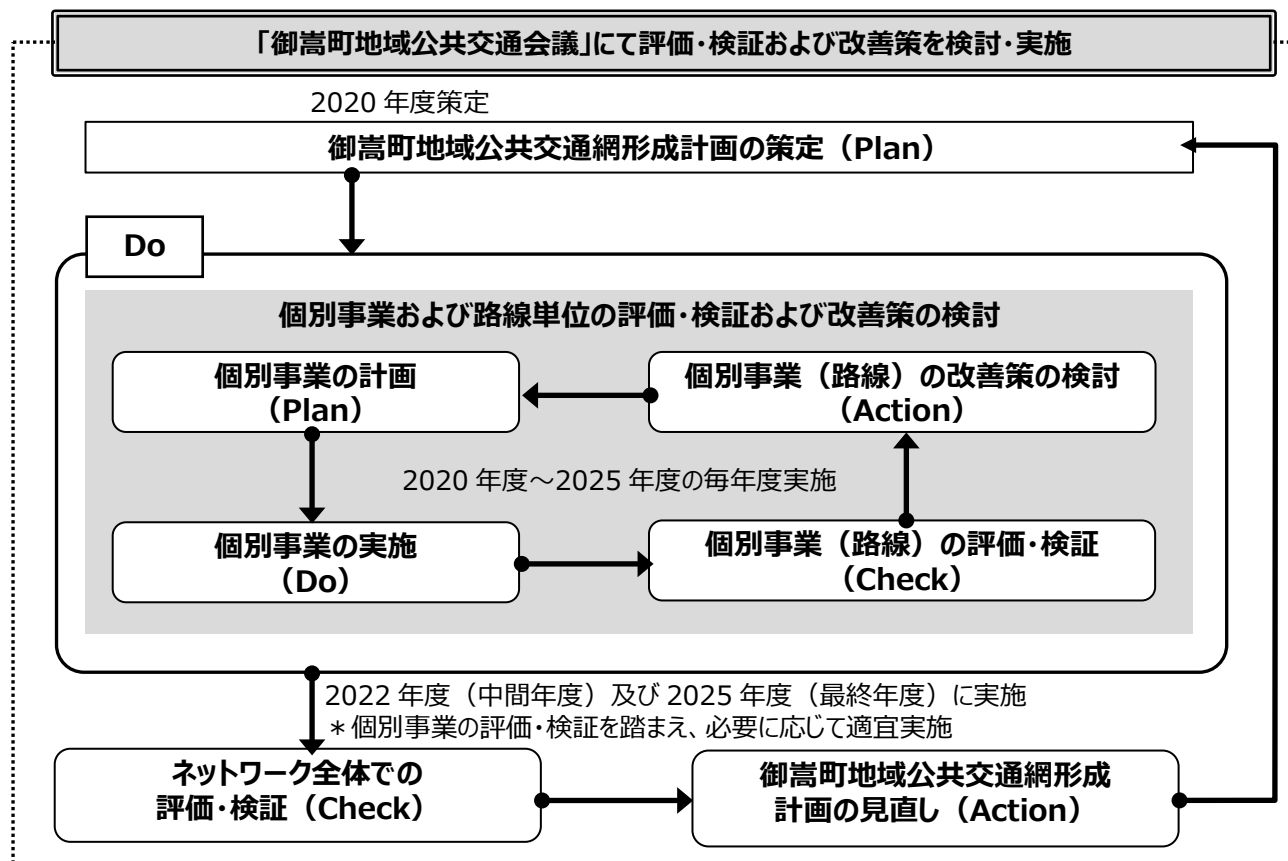
(1) 評価・検証の考え方及びその手順

本計画は、計画の策定（P）、事業の実施（D）、評価・検証（C）、改善策の検討・計画の見直し（A）といったPDCAサイクルを毎年度実施することで効果的な事業の推進を図ります。また、計画に基づき実施した事業の効果や影響を総合的に捉え、計画目標の達成状況を評価・検証することで、計画期間最終年度に御嵩町地域公共交通網形成計画の見直しを実施します。

<評価・検証の考え方>

- ・公共交通ネットワーク全体としては、計画期間の中間年度及び最終年度に御嵩町地域公共交通会議にて評価・検証および改善策の検討を実施することを基本としますが、毎年度実施する個別事業の評価・検証を踏まえ、必要に応じてネットワーク全体の評価を適宜実施するとともに、バス路線の見直し等を実施します。
- ・個別事業については、毎年度、各事業主体と事務局が共同して、実施状況や目標値の達成状況を評価・検証するとともに、目標値を達成できていない場合の要因の分析を踏まえ、改善策を検討した上で、御嵩町地域公共交通会議へ諮ります。
- ・町支出額に関しては、車両更新費等の外部条件は含まず、利用者数の増加や広告収入等の各主体の取組みによる増収により減少を目指すものとします。
- ・目標年度の2025年度を最終年度として、2022年度の中間評価を踏まえ、必要に応じて御嵩町地域公共交通会議にて地域公共交通網形成計画の見直しを実施します。

図 8-1 公共交通ネットワークの評価・検証の流れ



(2)公共交通ネットワークの評価・検証

ネットワーク全体の評価・検証は、計画期間の最終年度（2025 年度）に計画の目標で設定した基本方針別の目標について、目標値の達成状況の評価・検証します。

表 8-1 計画の目標で設定した基本方針別の目標値

交通将来像	
「みたけファンのくらしと交流を支える交通のまち」	
基本方針	目標値
【基本方針Ⅰ】 御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成	【目標値】 ● 町内の公共交通の利用者数 ● 公共交通全体の満足度 ● 利用者一人当たりの町支出額
【基本方針Ⅱ】 広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入に向けた取り組みの推進	【目標値】 ● 名鉄広見線の利用者数 ● 主要観光施設の観光入込客数
【基本方針Ⅲ】 わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開	【目標値】 ● 公共交通の認知度 ● 利用しやすさの満足度 ● 関係者が連携・協働した取り組みの件数

(3)個別事業および路線単位での評価・検証

個別事業の評価・検証は、「計画の目標を達成するために行う事業・実施主体」で定めた各種公共交通の利用促進施策等に対応して実施するものであり、効果的かつ効率的な事業実施となるよう、毎年度、各事業の実施主体と事務局が共同し、進捗状況を踏まえた上で個別事業の継続・見直しを検討します。

また、個別事業の実施に伴う各路線への効果と影響についても把握し、安全性や利便性に配慮した運行を確保するため、必要に応じて計画年度中での路線見直しについて、適宜、検討・実施します。

表 8-2 路線単位での評価指標・目標値

【評価指標】 鉄道駅別・バス等路線別の利用者数			
路線名		目標値[2025]	現況値[2019]
公共交通軸（鉄道）	御嵩駅	1,240 人	1,232 人/日
	御嵩口駅	270 人	261 人/日
	顔戸駅	190 人	181 人/日
	明智駅	940 人	937 人/日
広域交流路線	YAO バス	200 人/日	197 人/日
地域交流路線	ふれあいバス みたけ・なか線	30 人/日	26 人/日
	ふれあいバス 工業団地・南山台線	40 人/日	36 人/日
	さつきバス 兼山線	17 人/日	17 人/日
生活交流路線	ふれあい予約バス ふしみ線	30 人/日	21 人/日
	ふれあい予約バス かみのごう線	20 人/日	16 人/日
個別輸送	一般タクシー	50 人/日	49 人/日

* 1 : YAO バス・さつきバス兼山線は交通事業者データより、利用者数を日換算

* 2 : ふれあいバス・ふれあい予約バスは御嵩町データより、利用者数を日換算

* 3 : タクシーは交通事業者データより、利用者数を日換算

* 4 : 目標値は公共交通全体の利用者数をトレンドで予測